2026年2月

緊急対応から
レジリエンスへ

プラン・インターナショナルのウクライナ・ポーランド・モルドバ・ルーマニアでの人道支援のインパクトに関するプログラム評価

プログラム
効果評価報告書

目次

頭字語・略語集 5

序文 6

はじめに 8

調査方法 10

主な調査結果 12

プラン・インターナショナルのECEでのプログラム効果評価 14

A. 直接的人道支援 14

B. 子どもの保護 18

C. MHPSS 22

D. SRHR 26

E. GBV 30

F. 教育 33

横断的な学び 37

A. ジェンダーと包摂 37

B. ユース重視 38

C. 関連性 39

D. 効率性 40

E. 持続可能性 40

示唆された戦略的方向性 42

結論 44

謝辞 44

参照文献 45

Appendix - Plan International's Partners per Thematic Focus 46

現金/バウチャー給付の配布中、娘たちを抱きしめていた母親、ルーマニア
© Plan International / George Calin

頭字語・略語集

CAY	子ども・思春期の若者・ユース
CoC	チャンピオン・オブ・チェンジ
CSE	包括的性教育
CSO	市民社会組織
CVA	現金/バウチャー給付
ECE	東・中央ヨーロッパ
GBV	ジェンダーに基づく暴力
GTM	ジェンダー・トランスフォーマティブ・マーカー
IDP	国内避難民
LGBTQI+	レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー・クィア・インターセックスなど、シスジェンダーかつ異性愛を前提としない多様な性のあり方
MHPSS	メンタルヘルスと心理社会的支援
NFIs	非食品物資
OCA	組織能力評価
ODA	政府開発援助
PALS	子育てと青少年のライフスキル
SEA	性的搾取と虐待
SEL	社会情動的学習
SRHR	性と生殖に関する健康と権利

序文

Anastasiia Konovalova
ウクライナ教育科学省次官

2022年2月、私は2歳の息子と共にウクライナから、ルーマニアへ難民として避難し、約1年間生活していました。そこで私はプラン・インターナショナルの存在を知りましたが、同団体は文字通り「私の命を救った」と言えます。より明確に言えば、プラン・インターナショナルの支援対象者に対する取り組みが、他の団体とは一線を画す、本質的な支援だったのです。その詳細を語りたいと思います。

ウクライナへの全面的な侵攻の開始時、私は教師として働いており、子どもたちのために人生を捧げてきました。なので、ルーマニアへの到着後に直ぐに、私の同僚と共にウクライナの子どものための授業を運営し始め、それは後に、国内各地に複数の教育拠点を設立するに至りました。授業開始当初から、想定していた200人の子どもを超える、約500人が参加しました。彼らは恐怖とトラウマに苛まれていました。占領下に置かれたマリウポリから来た子どもや、避難施設で長時間を過ごした子ども、死を目撃した子ども、飢餓を経験した子どももいました。彼らの保護者も、難民として新たな現実に適応しようとしていた私たち教師と同様に、子どもの支援に奮闘していました。

多くの人道支援団体がブカレストの私たちの拠点に訪れ、お菓子やロゴ入りのリュックサックの提供・エンターテイナーの招聘・塗り絵等の活動によるメンタルヘルス支援を行ってくれました。しかし、次第に無料の物品をもらうためだけに登校するようになり、依存的な行動を示す子どもが何名かみられるようになりました。その一方で、教師や保護者としての私たちの目標は、彼らが自立して生きていけるよう、レジリエンスの育成や学びと成長を継続できるための後押しでした。

生存のための基本的ニーズだけでなく、専門的知見と私たちの抱える問題への包括的な理解を持ち、私たちに最初に私たちに働きかけてくれた組織が、プラン・インターナショナルでした。彼らが私たちに、本当に必要なものは何かを最初に尋ねた存在で、プログラムの策定に私たちを参画させてくれ、その結果、私たち自身が主体となりながらも、新たな考え方を得るのを促してくれたのです。それは尊厳に関わる点でした。私たちは決して紛争の犠牲者として扱われることはなく、働き・有意義な活動への関与・自身の将来の計画の機会を与えられたのです。

ポーランド国境にて、次の目的地へ向かうバスに案内されるウクライナからの避難民
© Plan International

プラン・インターナショナルと彼らが選定した現地のパートナー団体は、緊急時に不可欠な迅速な対応と先を見据えた戦略的思考との両立を、見事に実現しました。彼らは教師だけでなく、子どもと彼らの保護者への綿密なニーズ評価のためのインタビューを行い、迅速な解決策を策定しました。通常、どんな支援にも時間を要するものですが、彼らがどうやってこれほどの成果を出せたのか、想像もできません。子どもは、早期発達プログラム用の本・タブレット・家具・おもちゃを提供されました。教師は、メンタルヘルスと心理社会的支援(MHPSS)とセルフケアに関する研修を受けました。それら全てが、子どもの支援と彼らと関わる人びとの尊厳の擁護に焦点を当てたものでした。プラン・インターナショナルはまた、教師の住居確保(アパートの賃貸)を支援し、教育拠点での活動による収入の獲得ができるよう支援しました。彼らが実施した最も重要な取り組みの1つは、ルーマニア全土のこうした教育拠点のネットワークを構築し、教師が経験の共有・相互支援を可能にさせたことでした。彼らが蒔いた種は、現在も実を結び続けています。

そのネットワークから、人びとは仕事の機会の獲得や、研修や会議への参加/事例研究/好事例の共有によるスキル向上、コミュニティ意識の形成をしています。

プラン・インターナショナルは、極めて困難な経験をしていた時に、私に自身の強さを発見する手助けをしてくれました。彼らは私を導いただけでなく、その導きにより主体的に行動できるようにしてくれました。その経験から、私は教育科学省次官に就くことを決めました。この役職で私は、基本的ニーズへの対応に留まらず、コミュニティリーダーがプロセスを主導し、自身の価値観に基づき意思決定を行う、人びと、一人ひとりを中心に据えた取り組みを、幼児教育改革に対して実践しています。私たちの目標は、プラン・インターナショナルのルーマニアでの私たちへの支援と同じ形で、彼らを支えることです。プラン・インターナショナルと協力した時に私が感じた、「自分の声が尊重され、大切にされていると感じること」を、彼らに感じてもらいたいと願っています。

Sven Coppens
東・中央ヨーロッパ地域(ECE)ウクライナ人道危機対応ディレクター

2022年3月2日、プラン・インターナショナルの国際理事会は、2022年2月24日に勃発したウクライナにおける戦闘激化の影響に対応するため、ECEにおける新たな事業展開を承認しました。その紛争により生じた難民・国内避難民(IDP)危機は、第二次世界大戦後にヨーロッパで起きた最大の人道危機となりました。2022年2月以来、プラン・インターナショナルはウクライナとその近隣諸国であるモルドバ・ポーランド・ルーマニアで確固とした拠点を確立しました。これにより、現在進行中の紛争に起因する人道危機に積極的に対応することが可能となりました。

プラン・インターナショナルは、ウクライナで影響を受けている人びとが経験している人道的ニーズと、ポーランド・ルーマニア・モルドバで生じている難民危機への対応を続けてきました。本プログラム評価報告書により、私たちの人道支援の成果をまとめ、取りまとめることができたことを誇りに思います。本報告書が、ウクライナ紛争が、ウクライナ紛争が、あらゆる立場の子どもや若者に及ぼしている壊滅的な影響を明らかにし、その解決に向けた取り組みに資することを願っています。

紛争勃発以来、ECEでの私たちの新たな活動は、プラン・インターナショナルの現現地化へのコミットメントを意図的に反映してきました。人道支援・開発分野での豊富な経験を生かし、プラン・インターナショナルのECE地域チームは、現地に根ざしたパートナー主導のアプローチを採用しました。65の現地組織・地方自治体との効果的な連携関係により、プラン・インターナショナルのウクライナ人道危機対応は、約170万人に支援を提供してきました。本プログラム評価報告書は、ウクライナ・モルドバ・ポーランド・ルーマニアの人道支援パートナーが過去4年間に成し遂げた多大な成果に対する、心から敬意を表するものです。

ウクライナにおける戦闘は激化した状態が続いており、終結の兆しは見えません。この壊滅的な紛争の開始から4年近くが経過した現在も、ウクライナの子どもが最も大きな影響を受けています。新たな攻撃が起きる度、彼らのトラウマは深まり、安全・教育・保護・メンタルヘルス・未来への希望が蝕まれています。

プラン・インターナショナルは、現在も続く紛争の影響を受けているすべての子どもと保護者と連帯し続けます。必要とされる限り、支援を継続していきます。

はじめに

2022年以降、ウクライナ紛争はECEでの人道支援の状況を大きく変化させ、調整された、現地に即した、ジェンダーに配慮した対応が求められている。こうした状況の中で、**プラン・インターナショナルのウクライナ人道危機対応**は、ECEでの市民社会組織(CSO)パートナーの統合的な人道支援プログラムの強化と付加価値の創出を目指してきた。具体的には、プラン・インターナショナルの世界的な人道支援活動の使命の一環として、ウクライナ国内・近隣諸国にいる難民・IDPや、紛争の影響を受けた人びとが直面している脆弱性やリスクの軽減を目指している。また、女の子[1]やユース、少数派や非主流の集団のレジリエンスやウェルビーイング、主体性の向上に重点を置いている。プラン・インターナショナルは、直接的な救命のための人道支援の提供と同時に、短期的な危機対応に留まらず、ECE全域での体系的不平等に対応し、社会・ジェンダー・経済的正義の促進を目標としている。

プラン・インターナショナルは、2022年2月にウクライナの紛争激化直後、ポーランド・モルドバ・ルーマニアで活動体制を整備し、迅速にウクライナ人道危機対応プログラムを実施した。私たちは、2022年8月にウクライナ国内での活動を開始し、その後ECE全域で同プログラムを段階的に拡大・強化してきた。

プラン・インターナショナルはECEでの活動開始以来、CSOパートナーがプロジェクトの全工程を主導できるよう能力強化を通じて、彼らによる統合的なプログラムの実施の拡大・強化を、同地域での最重要目標として掲げてきた。**パートナーへの資金配分比率**を常に**70%超**に維持することで、プラン・インターナショナルの現地に即したパートナー主導のアプローチは、迅速で現地の状況に即した迅速かつ持続可能な支援の提供を実現するとともに、現地のCSOアクターの長期的な能力強化に寄与した。その取り組みにより、プラン・インターナショナルは2022～25年に、**4カ国**の**65のパートナー団体・87のプロジェクト**を通じて**170万人以上**に支援を提供した(*表1*)。

表 1: ECE各国でのプラン・インターナショナルの活動

1　プラン・インターナショナルは、ジェンダーを、人びとのアイデンティティや表現に多様な形で影響を与える多面的な概念であり、性自認は男性と女性の二元的区分を超えるものであると認識している。従って、本報告書では「女の子」を包括的な用語として用いている。

ドナウ川をフェリーで渡り、ルーマニアに到着したウクライナからの難民
© Plan International / George Calin

ウクライナでの支援ニーズが拡大する中、世界的な援助環境は縮小傾向にある。世界的に、人道支援および開発援助の資金確保は一層困難になっている。OECDによると、2024年のODAは2023年と比べ、7.1%減少したという。その主な要因は、国際機関への拠出金の縮小・ウクライナ支援の縮小・人道支援の実施規模の縮小・ドナー国における難民受け入れ関連支出の減少にある[i]。

アメリカは2024年、600億ドル超を拠出し、ODA総額の30%を占め、世界最大の援助ドナー国だったが[ii]、アメリカ国際開発庁への資金拠出の停止/削減と他の国からの拠出額減少による国際援助の縮小は深刻な懸念となっている。世界で約3億人が人道支援を必要としているが、2024年だけで、国連の資金要請額と実際の拠出額との間に250億ドルの差が生じ、拠出額は目標の51%に留まった。2025年時点では、不足額は350億ドルに達しており、必要な資金の22%にしか達していない[iii]。

こうした変化は、人道支援の提供範囲と、ジェンダー・トランスフォーマティブでユースを中心に据えたプログラムの持続可能性を脅かしている。ウクライナに関しては、資金調達率は78%に留まり、資金不足が6億9,300万ドルとなっていた。

だが、4年目を迎えたウクライナにおける戦闘激化は、今も甚大な苦難を及ぼし続け、前線や北部国境地域での人道支援ニーズは一層深刻化している[iv]。従って、ECEおよび世界各地の他の組織と同様に、プラン・インターナショナルの戦略は、そうした状況の変化に適応することが求められる。

ウクライナ人道危機の主要指標[v]

- ウクライナ国内で、人口の36%にあたる**1,270万人**が緊急人道支援を必要としている
- **360万人**がIDPと推計されている
- ヨーロッパで**510万人**のウクライナ**難民**が確認されている

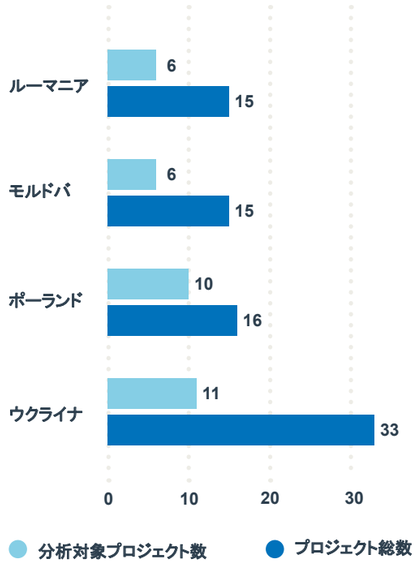
こうした重要な局面において、ウクライナ・モルドバ・ポーランド・ルーマニアでのプラン・インターナショナルの人道支援・連携・開発の各取り組みが生み出したプログラムの効果を評価することは極めて重要である。そうした分析は、2022年以降のECEでのプログラム成果に関し、プラン・インターナショナルがプログラム参加者にとどまらず、自らの取り組みを批判的に振り返ることを可能にする。また、その分析結果は、プラン・インターナショナルのECEにおける次期地域戦略の策定にも資する。

調査方法

プラン・インターナショナルのECEでのプログラムの効果を評価するため、二次データ分析が実施された。ウクライナ・モルドバ・ポーランド・ルーマニアで実施された/実施中の、**プラン・インターナショナルの33のプロジェクト**を含めた、入手可能な評価報告書、配布後モニタリング報告書、事後レビューなどの質的データを分析した(*表2*)。情報のトライアンギュレーション(相互検証)を行うため、プラン・インターナショナルの2025年国別戦略の調査結果と2023年以降の四半期報告書からの知見も分析に反映した。

テーマ別分析を実施し、プラン・インターナショナルの2023～25年ウクライナ人道危機対応戦略の策定に基づく**6つのプログラム領域**における知見を抽出した(*図1*)。体系的な分析を確保するため、本分析はOECD開発援助委員会(DAC)が定めた評価基準に従って実施された[2vi]。また、本分析では、各プロジェクトのジェンダー・包摂・ユース中心の観点も分析に組み込んだ。

表 2: プログラム実施国別の分析対象プロジェクト数



SRHR報告書発表会のパネルディスカッション、ブカレスト
© Plan International

2 OECD DACの評価基準は以下の通り。プロジェクトの妥当性・整合性・有効性・効率性・インパクト・持続可能性。

図 1: プラン・インターナショナルのECEでのプログラム領域

直接的な人命救助のための人道支援の提供	子どもの保護体制の強化	MHPSSサービスの利用可能性の向上
SRHRの保護と促進	GBVへの対応の強化	質の高い正規・非正規教育の継続的な提供の確保

ウクライナからの子どもへのリュックサック配布を支援するプラン・インターナショナル職員、モルドバ
© Plan International/ Tatiana Sultanova

制約事項

プラン・インターナショナルのECEプログラムは統合的な性質を持つため、本報告書で検証したデータソースは、複数のプログラム領域にまたがっていることが多かった。本報告書の一環として行われた分析が、入手可能な証拠の質に依存していたことを認識することは極めて重要である。プロジェクトの中には、量的データや体系的な評価の不足により、ECEでの特定の介入策の影響に関して依然として不明確な点が残るものもあった。

本報告書は、主に2つのセクションで構成されている。第1セクションでは、6つのプログラム領域におけるプラン・インターナショナルのECEでの成果の評価を提示している。また同セクションでは、2022年以降にECEにおけるプラン・インターナショナルが作成した調査報告書の主な知見を統合し、各プログラム領域でのニーズと課題の概要を示している。第2セクションでは、プロジェクトの妥当性・効率性・持続可能性に関する横断的な知見について論じており、プラン・インターナショナルがECEで実践している、ジェンダー・包摂・ユース中心の取り組みに関する考察についても検討している。

主な調査結果

プラン・インターナショナルとパートナー団体による ECEでのプログラム実施結果の概要

直接的人道支援

- 現金/バウチャー給付(CVA)等の様々な形の緊急支援により、プラン・インターナショナルとパートナー団体は、ウクライナと受入国のIDP・難民コミュニティの変化していくニーズに対応している
- 介入策は、当初ECEでの緊急のニーズへの対応を目的としていたが、対象者のウェルビーイングや社会への適応も向上させ、結果、IDP・難民の新たなコミュニティへの統合に寄与した

子どもの保護

- 子ども・思春期の若者・ユース(CAY)の支援サービスへの紹介・主要な保護専門家の能力強化・家族レベルでの保護に向けた取り組みにより、プラン・インターナショナルとパートナー団体は、CAYのための安全で心理的に健全な環境の創出をECEで実現した
- 子どもの保護の取り組みは、障害を持つ子どもを含む難民であるCAYのウェルビーイングや社会統合の向上にも寄与した

MHPSS

- グループ/個人セラピー等、様々な形のMHPSS介入策により、プラン・インターナショナルとパートナー団体は、ウクライナと受入国のCAYを含むIDP・難民のウェルビーイングと心理的レジリエンスを高めることができた
- ウェルビーイングの向上は、避難民となったCAY・大人の対人関係と社会統合を強化した

性と生殖に関する健康と権利(SRHR)

- プラン・インターナショナルとパートナー団体による紹介や直接的なサービス提供により、ECEでのSRHRサービスの利用可能性が向上した
- IDP・難民・受入コミュニティは、自身のSRHRの理解と、ウクライナ国内・受入国での主要なサービスの利用を可能にするための、啓発活動と必要な情報の提供を受けた

ジェンダーに基づく暴力(GBV)

- プロジェクト対象者のGBVのリスクに対する認識を情報提供により高めつつ、プラン・インターナショナルとパートナー団体によるサバイバー向けの支援サービスの強化により、ECEでの彼らの保護と安全の確保に寄与した
- 直近では、ジェンダー規範に重点を置いたプログラムも、ウクライナと受入国でのGBV発生の抑制のために実施されている

教育

- ウクライナでは、プラン・インターナショナルとパートナー団体による様々な取り組みにより、継続する混乱の中での子どもの学習の継続を確保しつつ、学校の復旧活動により、質の高い教育へのアクセスを拡大している
- 受入国では、教育・社会活動を継続させることで難民のCAYにとって安全な場を提供し、語学コースは彼らの受入コミュニティへの統合を積極的に支援した

IDP向け滞在施設で、友人同士が犬と遊んでいる様子、ウクライナ
© Plan International / Albina Vinar

主要な横断的知見

ジェンダーと包摂

- 当初のプログラムは、プロジェクト対象者のジェンダー特有のニーズへの対応にのみ重点を置いていたが、2025年時点では、ECEでの大多数のプロジェクトがジェンダー・トランスフォーマティブの基準を満たしている
- 包括的評価が、ウクライナと受入国のIDP・難民の集団だけでなく脆弱な立場にいる集団も支援の対象とするためには、必須となっている

ユース重視

- 2023年以降、プラン・インターナショナルはECEのユースと関与し、彼らが自身のニーズや優先事項を表明できる場を提供することで、ユースの包摂を意図的に推進している
- プラン・インターナショナルは2024年、より体系的で参加型のアプローチへと戦略的に転換し、ECEの地域全体のプログラムにおける若者重視を一層強化した

プラン・インターナショナルの ECEでのプログラムの効果評価

A. 直接的人道支援[3]

プラン・インターナショナルとパートナー団体による全ての対象国における人道支援は、適応力と尊厳を中心に据えた取り組みを特徴としており、IDP・難民コミュニティの喫緊のニーズと長期的なレジリエンスの強化にも対応してきた。

危機の発生以来、プラン・インターナショナルとパートナー団体は、ウクライナで影響を受けているコミュニティの変化していくニーズに応えるため、同国内での現金給付プログラムの強固な基盤を築いてきた。その取り組みにより、支援対象世帯は基本的なニーズを満たし、経済的安定性が高まり、尊厳が保たれた。また、現地のパートナー団体を、一層持続可能で効果的な支援を提供できるよう能力強化にも寄与した。CVAは当初、医薬品・食料・衛生用品に関するニーズを満たすために採用されたが、冬季のエネルギー費用に対応する現金給付も、世帯の状況改善に寄与している。

ECEにおいて、プラン・インターナショナルとパートナー団体により
50万7,000人
に**直接的人道支援**が提供された

CVAについて

2024年、ウクライナは世界で最大規模の現金支援を受けた国となり、支援を必要とする人びとに対し推定6億6,800万ドルが提供された[vii]。現金/バウチャーの提供により、CVAは危機下の人びとの尊厳と選択権を持って自らの生活を主体的に管理する力を取り戻すことを可能にし、彼らが最も必要とするものを購入できるようにする[viii]。2022年の地域難民対応計画[ix]に基づき、プラン・インターナショナルはウクライナ・モルドバ・ポーランド・ルーマニアのIDP・難民コミュニティに対し、総額**510万ユーロ**のCVAを実施した。

ウクライナでは過去1年間、紛争が子どもと彼らの家族の生活を妨げ続ける中、プラン・インターナショナルとパートナー団体にとって、人命救助に直結する直接的支援が最優先事項であり続けた。

3　プラン・インターナショナルは、人道支援において統合的なアプローチを採用しており、プロジェクトでは複数のプログラム領域にまたがって活動を行っている。プラン・インターナショナルのECEでの戦略・プロジェクト活動全体は人道支援であるが、保護や教育活動等の取り組みも人道支援であり、人命救助につながる場合も多いが、本報告書ではそれらを別個に扱っている。従って、本セクションでは、CVA・食料・NFI等の直接的な人道支援と緊急支援サービスについて扱う。

多目的現金給付・保護目的の現金給付・冬季支援・修繕用バウチャー・NFI・少額助成金等、柔軟な支援の形により、世帯が緊急のニーズに迅速かつ有効に対応できるようにした。それらの介入策は、対応能力の強化・保護成果の支援・影響を受けている人びとの主体性の向上に対しても極めて重要な役割を果たした。前線地域から避難中の世帯など、現金給付が効果的ではない場合は、非金銭的支援が必須の支援となった。

プラン・インターナショナルとパートナー団体は受入国で、難民の喫緊のニーズに応えるための、様々な形の緊急支援を中心に据えて実施している。何年にもわたり、プラン・インターナショナル・**モルドバ**事務所とパートナー団体は、冬用キット・食料・衛生用品・CVAの配布とともに、難民が制度を把握し、各種サービスを利用できるように支援してきた。医薬品・食料のバウチャー配布は特に、難民世帯が緊急の医療ニーズを満たし、食料安全保障を強化する上で極めて有効であった。2024年には、プラン・インターナショナルは、ウクライナからの難民のニーズに応じ、モルドバ国境における緊急支援パッケージおよびサービスを提供して、同国での人道支援を継続した。

冬季支援について

プラン・インターナショナルはECEでの地域戦略の一環として、緊急支援を必要とする人びとに支援を提供している。10月以降は、厳しい気象条件に備えるための**冬季支援**も含まれる。CVA作業部会の指針に基づき、各国チームと現地パートナーによる詳細なニーズ評価に基づき、プロジェクト対象者のニーズを満たす最適な支援形態(現物支給または現金給付)が選定される[4]。

ルーマニアでは、プラン・インターナショナルのパートナー団体が、緊急避難所およびモバイル支援チームを通じて、難民・受入コミュニティの両方への支援を実施し、基本的ニーズを満たしつつ、社会への統合を促進した。ブカレストの緊急避難所は、ルーマニアに到着した世帯にとって最初の受入拠点となり、移動支援チームは、民間の宿泊施設に滞在する難民に対する、食料やNFIの配布・ソーシャルワークサービス提供・書類手続き支援・ルーマニアの社会福祉制度の利用を支援した。また、難民のコミュニティセンターへの登録・各種サービスや紹介サービスの利用・一時保護に関する相談や医療受診を支援するため、コミュニティファシリテーターや情報提供担当者が彼らを支援した。

4　ウクライナでは、冬季への準備支援として現物支給が行われる場合もあり、支援を必要とする世帯、特に子どもがいる者・障害を持つ者・高齢者などに対して衣類や毛布が配布される。

Moldova for Peaceの倉庫で衣類を探す母親と娘、モルドバ
© Plan International

食料バウチャーも配布されたが、ルーマニアのパートナー団体の人道支援の取り組みは、他の多くの組織が食料支援のみを提供していた状況下で、難民にとって特に高い意義を有していた。

そして**ポーランド**では、変化し続ける人道支援情勢に対応するために、プラン・インターナショナルはパートナー団体とプログラムを策定・実施した。介入策は当初、難民の喫緊のニーズに応えるため、緊急支援・現金給付・NFIの提供に重点を移した。プラン・インターナショナルとパートナー団体は、CVAと衛生キットの配布を継続していたが、2024年以降のポーランドへの難民の流入は落ち着きをみせたため、プラン・インターナショナルは、中期的なサービス、住居、教育へのアクセスと長期的なMHPSS支援に重きを置いた。それにより、ポーランドの変化していく人道支援情勢で、活動の継続的な重要性と効果が維持された。

プラン・インターナショナルとパートナー団体によるECEでの人道支援活動は、主に喫緊のニーズへの対応であったが、それらの活動が対象者のウェルビーイングや社会統合の向上を促し、IDP・難民の新しいコミュニティへの統合に寄与した。例えば、**ウクライナ**でのプロジェクト結果から、基本的なサービス・リソース・安定した生活状況の利用の向上により、社会的結束とコミュニティへの関与が強化されたことが示唆されている。同様に、**ポーランド**と**ルーマニア**での教育と連携した介入策では、可能な限り通常の生活に近づけた生活への適応を促す活動を展開することで、難民世帯のウェルビーイングや社会統合が向上した。子どもが学習活動に参加するようになり、保護者は就労機会を探せるようになった。移住により混乱が生じたものの、彼らは日常生活の連続性を取り戻すことができた。

HumanDoc統合センターで支援を受ける母親と娘、ポーランド
© Plan International

プラン・インターナショナルの人道支援に関する調査からの知見[5]

プラン・インターナショナルのECEで実施する全プロジェクトにはフィードバック・メカニズムが整備されているが、ウクライナでの紛争により、近隣諸国では、ウクライナ難民がGBVや性的搾取と虐待(SEA)に遭う危険性が高まっていることを踏まえると、SEAの通報を妨げる要因の把握が極めて重要である。

プラン・インターナショナル、CARE、International Rescue Committeeが2025年に**ポーランド**[x]で実施した調査は、ウクライナからの難民は支援を受ける際、**基本的な生存ニーズを優先**するため、SEAの通報を優先事項とは考えないことが多いことを明らかにした。同調査結果は、虐待に関する社会的規範やタブーも原因の1つであり、**支援サービスを受けられなくなることへの恐れが、安全上の懸念を上回っている**ことを示した。さらに同調査から、支援物資の配給時の力関係の不均衡に対する認識の乏しさも問題を一層複雑化させていることが示され、人道支援アクターにECEでのそうした力学に対する理解を深めることが求められていることを示している。

ウクライナからの難民は、人道支援アクターによる不適切な行為により生じ得るSEAの危険性を、概して認識していないため、通報に対する障壁を克服するためには、防止策を最優先すべきである。従って、本調査は、以下の取り組みにより通報を促進できることを示している。

- 通報の権利や機会に関する啓発と、利用可能な支援体制の整備
- 簡素化や言語面およびデジタル・物理の両面で多様な窓口の設置等による、報告体制の利便性とその機密性の向上
- 導入された仕組みやプロセスに関する説明責任の遂行

ポーランドでのSEAの低報告率についての詳細は、

以下の報告書を参照。

Study Synthesis: Research on Barriers to SEA Reporting(2025年7月)

ポーランドとウクライナの国境付近の非公式受入センターを訪問するプラン・インターナショナルの職員
© Plan International

5　本小セクションおよび後続の類似セクションでは、プラン・インターナショナルがECEで実施した調査結果をまとめている。

B. 子どもの保護

プラン・インターナショナルとパートナー団体によるECEでの子どもの保護活動は、体制強化・現地アクターの能力強化・脆弱な立場にいる子どもが個別の状況に応じた支援の提供に重点を置いてきた。ウクライナと受入国では、CAYにとって安全で包摂的な環境を創出するよう設計されている。

ECEにおいて、プラン・インターナショナルとパートナー団体により
19万1,000人
に**子ども保護プログラム**が提供された

プラン・インターナショナルとパートナー団体による子ども保護の取り組みにより、CAYを支援サービスへつなぐことが可能となった。ウクライナでは、パートナー団体が事例管理・紹介体制の強化において極めて重要な役割を果たした。そうした体制により、公的機関やNGOは、IDP・障害を持つ・里親家庭で暮らす子どもなど、高いリスクに晒されている子どもを特定し、継続的かつ個別化された支援の提供が可能となった。その支援により、子どもの具体的なニーズが把握・対応されたことで、保護上のリスクが低減され、彼らのウェルビーイングや社会統合の向上が促進された。

受入国でも、プラン・インターナショナルは事例管理・紹介体制の強化に取り組んだ。例えば**モルドバ**では、プラン・インターナショナルは現地のパートナー団体を通じて、国家データベース「Primero+」の導入を支援した。それにより、同伴者がいない難民申請中の子ども・身分証明文書に不備がある子ども・障害を持つ子ども・障害を持つ保護者の子ども・保護措置として家族から引き離された子どもなど、高いリスクにさらされている子どもの体系的な登録・事例管理が可能となった。

同様に**ポーランド**でも、プラン・インターナショナルは主要な子ども保護機関と提携し、対応が十分に行き届いていない体制を支援した。ウクライナ語による言語サポート・多文化プログラム・事例管理を含む、レクリエーション施設、各種機関、ヘルプラインによるサービスの提供により、喫緊・長期的なニーズの両方に対応した。

また**ルーマニア**では、プラン・インターナショナルのパートナー団体が、最も脆弱な立場にいる子どもや彼らの保護者の未充足ニーズに直接対応するとともに、子どもの保護に関する事例の当局への報告による、当局との連携も行った。

子ども保護分野の専門家の能力強化も、CAYにとって保護的な環境の創出を可能とした。2024年半ばまで**ウクライナ**で実施されたプロジェクトの結果は、子どもの保護の最低基準とプラン・インターナショナルの**PALS**プログラムに関する研修による、ドネツィク州の教育機関・社会サービス・公的団体・政府機関で働く専門家の意識向上を示唆した。同研修は、ウクライナの人道危機下での保護に関する主要概念に対する専門家の知識を深めさせると同時に、専門職としてのレジリエンスを育成するためのスキルの向上を支援した。ウクライナでの子どもの保護領域での協力強化のため、同取り組みは地方自治体との会合や円卓会議により補完された。2024年、プラン・インターナショナルとパートナー団体は、紛争下での事例管理に関するソーシャルワーカー向け研修を含む、様々な能力構築プログラムも実施した。

プラン・インターナショナルのPALSプログラムについて

プラン・インターナショナルの世界規模の**PALS**プログラムは、緊急事態や長期化した危機下にいる思春期の若者と彼らの保護者を支援するものである。同プログラムは、10歳～19歳の思春期の若者と彼らの保護者への、危機下での思春期の若者の健康・安全・ウェルビーイングを支えるために必須の必要な情報、スキル、リソースの提供を目的としている[xi]。

受入国では、プラン・インターナショナルとパートナー団体による専門家への研修の実施により、

第1回国際遊びの日を記念したイベントで息子と遊ぶ父親
© Plan International

ウクライナからの難民の保護ニーズに効果的に対応するための個人・組織の能力が強化された。モルドバでは、特に2023年と2024年に同国の子どもの保護担当職員数の急増に対応し、パートナー団体による研修を行い、能力不足への対応を図った。パートナー団体は、新任の専門家を対象に、事例管理や機関間調整を支援しつつ、日々の意思決定に必要な手続きでの明確に理解できるよう支援した。また、プラン・インターナショナルのパートナー団体は、2023年にモルドバ労働社会保護省が実施したRestart社会扶助制度改革の推進を支援し、異なるレベルの子どもの保護担当者やソーシャルワーカーを対象とした広範な能力構築活動が実施された。そして、子どもに配慮したフィードバック体制に関する研修も実施され、ウクライナからの難民やモルドバ国内の脆弱なコミュニティを支援する組織の能力強化につながった。

ポーランドでも、プラン・インターナショナルによる子どもにやさしい振り返りの仕組みの手引きの翻訳および普及は、国際基準を現地に適応させ、国家レベルでの保護の実践を改善するための主体的な実践の強化において、重要な役割を果たした。また、プラン・インターナショナルのパートナー団体は、病院やスポーツクラブでの子どもの保護・セーフガードの基準の定着に重点を置いた活動を実施した。それは2024年に施行された、未成年者と関わる組織全体に対する子どもの保護基準を強化した*Kamilek*法に基づく国家優先事項と足並みを密接に整合した取り組みであった。

同介入策は、そうした法的要件の制度と実施の間の格差に直接対応するものだった。900人超の医療従事者と98のスポーツクラブに研修を実施し、同プロジェクトは組織の準備体制の強化と、新たな基準の遵守のための実践的なツールの提供を行った。

受入・難民コミュニティを対象とした家族レベルの保護に対する取り組みも、CAYにとって心理的に健全な環境の創出に対し、重要な役割を果たしてきた。ルーマニアとモルドバのパートナー団体が実施した介入策全体で、保護者向けの**PALS**セッションを含む研修は、受入側・難民家族の双方の家族関係を強化した。セッションにより社会情緒的スキルが培われ、保護者の心理社会的ウェルビーイングも向上した。また、活動により形成されたネットワークは、助言の交換・文化的体験の共有・心理的な安心感の提供を行う、持続可能なピアサポート体制へと発展した。両国にて、セッションが行われたコミュニティ空間は、受入側家族と難民の家族の非公式な集いの場となり、新たな支援ネットワーク構築を可能にした。

プラン・インターナショナルとパートナー団体による子どもの保護の取り組みは、制度や研修に留まらず、非公式教育や生計活動により、ウェルビーイングや社会への統合を支援した。例えば**ルーマニア**での結果は、リーダーシップ・ライフスキル・社会的結束を育成させる活動が、難民・受入コミュニティのユースを能力強化につながったことが示唆されている。思春期の若者に配慮した安全な空間の設置は、彼らに学習や交流のための安全な環境を提供し、ユースの自信・コミュニケーション能力・社会統合を高めた。同様に、**ポーランド**での統合的な子どもの保護に関する介入策は、ポーランドの教育制度にSELを導入することの価値を実証した。同取り組みは、ウクライナ人・ポーランド人の思春期の若者の双方にとって包摂的な環境の創出に寄与しただけでなく、彼らのウェルビーイングや情緒的・社会的レジリエンスを向上させた。

子どもの保護に関する介入策が障害を持つ子どもの新しいコミュニティへの統合も支援したことは、特に重要な点である。例えば**ウクライナ**では、パートナー団体が、特別な支援を必要とする子どものニーズに応えた、社会サービスの提供に対する包摂的な取り組みを促進する、包摂的なリソースセンターの設立を支援した。

CAYの特有のニーズに応える統合的なプログラム

プラン・インターナショナルの子どもの保護に関する取り組みでは、紹介や直接的なサービス提供を支援しているが、ウクライナからのCAYのニーズに応えるため、介入策に教育やMHPSSの要素を組み込むことが多い。例えば、主な活動として、CAYの就学継続・オンライン学習活動への参加・SELや語学の授業のカリキュラムへの導入支援が挙げられる。また、心理社会的支援やライフスキルセッションも取り入れて、彼らのウェルビーイングを高めるリソースを提供している。

同センターは、健康診断・教材・言語療法を含む専門サービスに対する不可欠な経済的支援を提供し、子どもと彼らの保護者を支援した。また介入策は、ソーシャルワーカーが直接家庭訪問し、サービス提供ができるよう資金を提供することで世帯の生活の質が大幅に向上した。

同様に**ポーランド**でも、パートナー団体が、ウクライナからの難民である障害のある子どものための、包摂的な環境創出に貢献した。*Spynkas*と呼ばれる安全な場で子どものニーズに応えることで、ウクライナからの障害を持つ子どもが他のウクライナの子どもとそこで交流し、日常生活の感覚を取り戻すことができた[6]。また同国では、ウクライナ・ポーランドの障害を持つ子どもに対する個別のケアが提供できるよう、多部門による包括的な取り組みが展開された。専門家間の連携が、コミュニケーション能力と運動能力を向上させ、家族の介助者がが、ポーランドの学校への統合を支援することで、難民の子どもの孤立を軽減する上で極めて重要な役割を果たした。

6 プラン・インターナショナルがポーランドで2024年4月まで実施したSpynkasプロジェクトは、ウクライナからの難民の障害を持つ子どもを支援するために、極めて重要な安全な場を提供した。Spynkasでは、保育とウクライナ語による専門的なケアを組み合わせることで、障害や疾患の有無に依らず、あらゆる子どものニーズに対応した。

プラン・インターナショナルの子どもの保護に関する調査から得られた知見

ウクライナ紛争激化は、思春期の女の子と男の子と彼らの保護者の安心感や保護されている感覚に影響を及ぼしている。だが、プラン・インターナショナルの調査結果が示唆している通り[xii]、ウクライナ国内にいる子どもと受入国にいる子どもでは、子どもの保護に関する懸念事項が異なる。

ウクライナでの主な保護上の懸念事項

ウクライナでは、直接紛争に関連する爆弾や暴力による個人の安全への脅威が最大の懸念事項となっている。爆撃の脅威が思春期の若者の心身の健康に影響を及ぼし、紛争激化により生じた不安定な状況が彼らの移動の自由を著しく制限している。プラン・インターナショナルの調査結果が示す通り、ウクライナにいる思春期の若者の安心感は、特にシングルマザーである保護者の負担増大によっても脅かされており、保護者は思春期の若者の監督より、彼らの基本的ニーズを満たすことを優先しなければいけない場合もある。大人の監督が減少することで、思春期の若者は自ら対処できない事故や危険に直面する可能性が高まる。

ECEの脆弱な集団の子どもの保護に対する脅威は一層深刻である

プラン・インターナショナルのECEでの調査結果は、同伴者がいない未成年者・障害を持つ思春期の若者・ロマなどの少数派出身の女の子といった特定の集団の保護上でのリスクの増大も示した。紛争により既存の脆弱性が一層深化する中、それらの思春期の若者は、支援体制の崩壊や様々な形の暴力に遭うといった、複数の危険に晒されている。

ウクライナでは、紛争により**障害を持つ思春期の若者**が、安全な住居への転居や自身の安全のために必要な避難への参加の実現に対する困難等、保護上の重大な困難を経験している。**ポーランド**では、難民の障害を持つ子どもと彼らの家族が二重のスティグマを経験している。障害による行動上の困難や問題と見なされる場合があると同時に、難民という立場ゆえに差別を受ける場合が多く、それにより、保護者が子どものニーズやケアに対応することが一層困難になっている。

加えて、プラン・インターナショナルの調査結果によると、**ウクライナ国内のLGBTQI+コミュニティのメンバー**が抱えていた脆弱性が紛争激化により、一層高まっていることが示されている。スティグマや差別を恐れて自身の性自認や性的指向を明かすことを控えたいと感じることがある人びとにとって、避難所の確保・生活必需品の入手・包摂的なサービスの利用に対しても困難を経験する可能性がある。

ユースの主体性

思春期の若者は通常、危機による移住の決断を含む、**意思決定プロセス**に関与させてもらえておらず、そのため彼らは家族の決定に自分事として捉えられていない。家族からは、紛争による圧力・ストレス・不安により、保護者は家族の福祉のために迅速な決断を下すことが求められる場合が多い、と意見が示されている。それが、思春期の若者に相談することなく重要な決断が下されることにつながることがある。プラン・インターナショナルがインタビューを行ったユースは、自身の主体性や意思決定権が制限された状況でも、自国の**再建・復興**に積極的に関わりたいという意志を示した。ユースは、ウクライナの経済・エネルギーインフラ・病院・住宅・職場・学校等の再建に関する議論に寄与する明確な意見を持っている。

ECEでの子どもの保護のニーズや課題についての詳細は、

以下の報告書を参照。

ウクライナ紛争を語るユースたち: ウクライナの復興と復旧にユースの声を反映させる(2023年6月)

危機下の思春期の女の子 ウクライナ、ポーランド、ルーマニアからの声(2024年6月)

Building Bridges: Towards Inclusion for Refugee Children living with Disabilities in Poland(2024年10月)

C. MHPSS

プラン・インターナショナルとパートナー団体はECE全体で、MHPSSの利用可能性を大幅に向上させた。直接的なサービスと現地の人材育成を組み合わせることで、パートナー団体のMHPSSに関する活動は、個人の自己肯定感の回復と対処能力の向上の機会を提供することにより、避難によるトラウマからの回復を支援してきた。

ECEにおいて、プラン・インターナショナルとパートナー団体により

5万人

に**MHPSSプログラム**が提供された

現地の能力強化が、ECEでの持続可能でコミュニティベースのMHPSSに関する介入策を実施する上での鍵となった。例えば**ウクライナ**では、プラン・インターナショナルのパートナー団体が、若手心理士、特に学校で勤務している者の知識・能力を強化した、支援を必要とする子どもに対する効果的な学校ベースのMHPSSの提供だけでなく、サービスの利用可能性の持続的な拡大にもつながった。学校での基本的なMHPSS・子どもへの支援を支えるための教員研修が、教員が生徒と関わり、良好な関係を築く能力を向上させ、教員への心理的支援は彼らの疲弊の低減に寄与した。またウクライナでの介入策は、最もニーズの高い地域でのプログラム実施のためのファシリテーターを養成することにより、プラン・インターナショナルの**PALS**と**Parenting under Pressure**プログラムの実施を推進した。

ウクライナでは、パートナー団体により実施されたグループ・個人療法が、継続中の紛争下で子どもの情緒的レジリエンスを育む一助となった。パートナー団体の介入策は、学校でのMHPSSサービスの強化・情緒の制御能力の向上・恐怖や不安の軽減・子どもの前向きな思考の促進に寄与した。支援的な環境と専門家の指導に加え、呼吸法やアートセラピー等の活動を行うことで、子どもが自らの感情を建設的に調整する能力が一層高まった。プラン・インターナショナルとパートナー団体によるMHPSSに関する過去1年間の取り組みは、ウクライナで継続して極めて重要な役割を果たした。

子ども向けの特別セッション・個別カウンセリング・グループ心理ワーク等の活動により、子ども自身と彼らの家族にとって、悲嘆や終わりの見えない喪失感への対応という事項に特化した支援が実現した。

プラン・インターナショナルのECEでのMHPSSへの取り組み

紛争の影響を受けた人びとの精神疾患の有病率は約**22.1%**[xiii]であり、紛争下での支援の重要性が示されている。ウクライナ紛争の影響を受けた人びとは、継続的なストレス・暴力・不安に晒されているために、特に脆弱な状態であり、専門的なケアを必要としている。プラン・インターナショナルはECEで、包括的でライフコースに即したアプローチを優先し、全てのプロジェクト対象者・パートナー団体・職員が必要なMHPSSサービスを利用できるようにしている。

また、様々な形のMHPSSの取り組みにより、受入国・難民コミュニティ双方の対象者のウェルビーイングも向上した。ポーランドでは、パートナー団体が子どもや女性向けに調整したサービスを提供した。セラピー・アートやスポーツをベースとした活動・ピアサポートネットワーク等のサービスは、ストレスの軽減と全般的なウェルビーイングの向上に寄与した。また、GBVのサバイバーなどの深刻な事例に対する、ウクライナ語とロシア語で提供される専門的なケアへの紹介体制も整備された。

同様に**モルドバ**でも、MHPSSサービスの提供が、パートナー団体による個人/グループセッション・アートセラピーワークショップ・社会的結束の促進イベントの実施により行われた。受入・難民コミュニティを対象としたSELと心理的応急処置の取り組みは、CAYに感情を表現し、効果的な対処戦略を身に付けるための安全な場を提供した。パートナー団体は、高いリスクにさらされている子どもの専門機関への紹介や関連する社会的支援も行ったが、上述の活動が、双方の集団のストレスの軽減とウェルビーイングの向上に大きく寄与した。

MHPSSのグループ活動に参加する子どもたち、ウクライナ
© Voices of Children

ルーマニアでも、MHPSSに関する介入策により、CAYのトラウマの処理と対処戦略を身に付けるためのセラピーを受けられるようにした。例えばパートナー団体は、日常的に利用できる若者向けスペースとトラウマに配慮したプログラムにより、ウクライナ人・ルーマニア人の思春期の若者を支援した。それにより、特に男の子にみられる不安・罪悪感・アイデンティティの断片化等の、感情的な困難に対応することができた。

CAYに加え、介入策は大人の心理社会的ウェルビーイングにも重点を置いた。例えば**ルーマニア**では、保護者にストレスを軽減し、自身のウェルビーイングと子どもとのコミュニケーションを改善するための機会を提供した。世帯主として直面する経済的・行政的・社会的困難を考慮すると、継続的な心理的支援は、特に子どもを持つ女性にとって健全な対処方法を身に付ける一助となり、有益であった。

心理社会的ウェルビーイングの向上は、IDPとなったCAYと大人の対人関係や社会統合の向上の促進にもつながった。

例えば**ウクライナ**の学校で実施されたプロジェクトでは、子どもの他者に心を開く姿勢や彼らが同級生・友人と交流し、関係を深めようとする意欲が、グループセッションにより高まった。同様に、ウクライナにいる子どもにアートセラピーキットを提供したプロジェクトも、子どものウェルビーイングを高め、保護者と子どもが質の高い時間を共に過ごす機会を創出し、家庭内の人間関係に好ましい影響を与えた。過去1年間の**PALS**研修の展開は、保護者と子どもの関係を築き、紛争下という高い緊張感を伴う状況下でも健全な対処戦略を用いてコミュニケーションをとることへの支援を強化した。

受入国での社会的結束や難民へのMHPSSの取り組みは、難民の新たなコミュニティへの統合も後押ししている。ウクライナからの難民女性を対象に行われた**ポーランド**でのMHPSSセッションは、彼女たちのウェルビーイングの向上に寄与した。それらのセッションは、彼女たちの家庭内で、セッションで得た知識の共有を促しつつ、他の難民の仲間やポーランド人との間で支援関係の構築を促すことで、女性の社会への統合にも貢献した。**モルドバ**と**ルーマニア**でも、MHPSSのグループセッションや料理ワークショップ・アートセラピー等の異文化交流活動の中での、開かれたコミュニケーションを可能にした安全な場の提供により、受入・難民コミュニティの間に連帯感が生まれた。

プラン・インターナショナルのMHPSSに関する調査から得られた知見

継続中のウクライナ紛争は、CAYのメンタルヘルスおよび心理社会的ウェルビーイングに重大な影響を及ぼしている。プラン・インターナショナルの調査結果が示す通り[xiv]、避難の精神的負担・家族や友人の喪失・教育の中断といった要素のすべてが、ウクライナのCAYに深刻な影響を及ぼしている。

紛争体験によるストレスと不安

プラン・インターナショナルのECEでの調査結果は、**ウクライナ**の思春期の若者が、高レベルのストレスや不安・睡眠障害・情緒不安等、紛争体験による**長期的な心理的影響**の症状を示していることを明らかにしている。攻撃下にある地域や前線地域にいる思春期の若者は、**恒常的な危険に晒され**深刻に苛まれている。継続的なストレスと不安が、彼らの緊張感を高めている。そうした状況への対応には心理的支援が必要となることが多いが、ウクライナにいる思春期の若者と彼らの保護者は、必要な専門的メンタルヘルスサービスの利用可能性が著しく低いと報告している。

受入国では、ウクライナに家族の一員が残っているため、**ストレスや圧力の高まり**を感じていると、思春期の若者の多くが報告した。ウクライナからの子どもの多くは、日常生活でストレスを感じ、家族の経済・住居の問題を懸念していると報告した。思春期の男の子は、自身の生存に加え、社会的期待も精神的苦痛を増大させているという。

脆弱な集団が経験する困難

プラン・インターナショナルの調査結果は、紛争の影響を受けた**障害を持つ思春期の若者**は、社会的排除や専門的な支援を提供する機関の能力不足等の既存の障壁により、強いストレスと不安を感じていることを示した。紛争による、継続的な支援体制・社会的ネットワーク・定期的なセラピーセッション等の必要不可欠なサービスの断絶が、彼らのメンタルヘルスを蝕んでいる可能性がある。

LGBTQI+コミュニティに属する思春期の若者は、紛争勃発前から経験していた敵意により、特有の心理社会的困難を経験している。スティグマや差別への恐れは、思春期の若者のメンタルヘルス支援を求めることを妨げ、孤立感を強め、有害な対処戦略を採らせる原因となり得る。

また、プラン・インターナショナルが実施したウクライナの復興・回復に関する調査の対象者のユースによると、**兵士や退役軍人**に対するMHPSSも緊急に求められているという。兵士にとって、市民の日常生活への再適応は極めて困難になり、そのため、退役軍人とその家族を支援するための、再適応プログラムの実施が不可欠である。

受入国で思春期の若者が経験する困難

ウクライナからの難民は対応活動当初、受入国で大変温かく迎えられたが、**反移民的な言説**が憂慮すべき速度で過激化している。プラン・インターナショナルの調査結果は、そうした状況下で、**ルーマニア**や**ポーランド**に避難している思春期の女の子が、国籍によるヘイトスピーチやハラスメントに遭う事例が増加している。受入国の文化や考え方の違いも、彼女たちの社会への統合に影響を及ぼしており、例えばポーランドにいる思春期の女の子は、言葉の壁や文化の違いにより、現地コミュニティの同世代の女の子との間に特に距離を感じていると述べた。

同様に、避難生活は友人関係や仲間グループを分断し、思春期の男の子とユース男性の多くは、**言葉の壁・文化の違い・感情の封じ込み**により、新たなつながりの構築に困難を覚えている。サバイバーであることへの罪悪感を抱いていると語る者も中にはおり、ウクライナに残った仲間と比べ、自身が苦労せずに特権を得ていると感じているという。受入国で歓迎され、安全を感じているユース男性もみられたが、敵意の高まりを感じ、危険が伴う中でもウクライナへ戻るよう圧力を感じている者もいた。

思春期の若者の対処戦略

信頼できる社会的環境が心の安らぎをもたらすため、家族や友人は思春期の若者の不安を軽減する助けとなる。また、紛争の過酷な現実に立ち向かい、日常生活の感覚と落ち着きを育むため、思春期の若者は、読書や音楽鑑賞、絵画、スポーツ、自然の中で友人と散歩すること、等の活動にも取り組んでいる。

だがプラン・インターナショナルの調査結果は、紛争激化によるストレスや不安への対処戦略として、思春期の若者が**有害な対処戦略**を採っていることも明らかにした。例えば**ウクライナ**では、保護者が電子タバコの使用やインターネットの長時間利用が顕著に増加していると報告している。また、思春期の男の子は、社会的孤立・危険を冒す行動・現実逃避手段としてアルコールやオンラインゲームへの依存に至る可能性があるという。そうした状況は、ストレスへの対処のための健全な選択肢を提供するMHPSSに関する介入策の必要性を明示している。

MHPSSサービスの利用に対する障壁

ウクライナ国内・受入国共に、無料のメンタルヘルスサービスに関する**入手可能な情報の不足**や、民間の心理的支援を受けることに対する経済的制約が、思春期の若者がどこに助けを求めるべきかを知ることを妨げる主な障壁となっている。しかし、思春期の男の子とユース男性は、MHPSSサービスの利用を阻む、社会的・文化的な障壁も経験している。**伝統的な男性性の規範**が、弱さを見せたり助けを求める行動をしないようにさせるため、彼らの多くが弱くみられることを避けて感情を抑え込み、結果、孤立感を深め、メンタルヘルス支援を求めたがらない姿勢を強化している。

ECEでのMHPSSのニーズや課題についての詳細は、

以下の報告書を参照。

- ウクライナ紛争を語るユースたち: ウクライナの復興と復旧にユースの声を反映させる(2023年6月)
- "It Is Cool Here, No Doubt About It... But Home Is Home.": Exploring the Subjective Wellbeing of Children and Adolescents Living in Poland in the Face of the War in Ukraine(2023年11月)
- 危機下の思春期の女の子 ウクライナ、ポーランド、ルーマニアからの声(2024年6月)
- 見えない傷 ウクライナの思春期の男の子とユース男性のメンタルヘルス上の困難と支援(2025年3月)

ブカレスト駅でハンガリー行きの列車を待つ思春期の女の子
© Plan International/ George Calin

D. SRHR

プラン・インターナショナルとそのパートナー団体によるECEでのSRHRの取り組みは、直接的なサービス提供と啓発活動を組み合わせることで、政治的に制限された状況下で、女の子・女性・脆弱な立場にいる集団が、必要なケアや情報を得られるようにしている。

ECEにおいて、プラン・インターナショナルとパートナー団体により

14万9,000人

に**SRHRプログラム**が提供された

啓発活動と教育介入策により、IDP・難民・受入コミュニティの人びとに自身のSRHRと主要なサービスの利用方法を理解するための、必要な情報が提供された。活動開始当初、年齢に応じた避妊・思春期・月経衛生管理・同意の理解の促進・健全な恋愛関係に関する教育を組み合わせたSRHRに関する啓発セッションを**ウクライナ**で実施し、前進がみられた。信頼できるSRHR情報の入手可能性の向上により、思春期の若者とユース女性の知識と自己保護能力が高まり、スティグマの軽減やジェンダー平等の促進にも寄与した。最近では、ウクライナでの啓発活動は**PALS**プログラムに統合され、ユースの自信の強化と健全な行動の促進を図っている。とはいえ、ウクライナでのこれらの啓発活動はいずれも、CAYが自身のSRHRに関して十分な情報に基づく意思決定を行う能力の向上に貢献している。

啓発・教育活動は、受入国でもSRHRの推進に寄与している。**モルドバ**と**ルーマニア**では、プラン・インターナショナルとパートナー団体が、ピア・ツー・ピアのモデルを採用した思春期の若者向けにSRHR教育を実施した。SRHRに関するセッションへの思春期の若者の参加から、これまで優先度が低いとされていたテーマに対する、想定外の関心の高さが確認された。そうしたセッションは、思春期の若者が生殖に関する健康の情報をほとんど入手できない状況下で、特に重要であった。また**モルドバ**では、受入側・難民の保護者を対象に、SRHRと子どもの保護を統合した子育てセッションを実施し、それにより、保護者のジェンダーに関する健康と権利について包括的な理解の深化を促し、彼らの家族のウェルビーイングのためのスキルが促進された。

受入国でも、プラン・インターナショナルとパートナー団体は、紹介制度・直接的なサービス提供により、SRHRサービスの利用可能性を向上させてきた。例えば**ポーランド**では、厳しい政策状況下で、プラン・インターナショナルはウクライナからの難民、特にGBVのサバイバーに対するSRHRサービスの紹介を支援し、保護者の同意のもと、学校外にいる難民の思春期の若者に対するCSEも実施した。加えて、あるパートナー団体を通じた、ポーランド人・ウクライナ人双方の生殖に関する健康を直接支援する診療所の開設を支援した。

モルドバでは、パートナー団体が、STI検査・避妊支援・専門医療への紹介サービスの提供により、難民・セックスワーカー・薬物使用者などの周縁化された人びとに支援の手を差し伸べた。最近では、その活動が拡大され、一時滞在施設の子ども・ロマの人びと・ユースを含む対象者に、妊婦健診・衛生キットの提供・思春期の若者向けの情報提供セッションが行われている。

プラン・インターナショナルのECEでのSRHRへの取り組み

プラン・インターナショナルがECEで活動する各国にて、学内外ともにCSEの実施は依然として限定的であり、CAYが自身のSRHR・性・恋愛関係に関する必須情報や支援を得られないままでいる。同地域での活動開始以来、プラン・インターナショナルとパートナー団体は、思春期の若者・ユース・サービス提供者への支援により、その欠如を埋め、年齢とジェンダーに配慮した適時のSRHRサービスや情報の提供を確保してきた。

ルーマニアではパートナー団体が、女の子と女性の、中絶・医薬品・紹介サービス等の、安全な医療サービスへのアクセスを提供した。また、ユース向けおよび、ウクライナ語・英語・ロシア語でサポートを提供する多言語コールセンターの2つの相談窓口の設置により、サービスの利用可能性が一層強化された。また、地方部での女性センターの設立により、コミュニティ住民がSRHRのサービスを利用できる安全な場が設けられ、コミュニティ主導の取り組みによる住民のウェルビーイングを向上させる取り組みも行われた。

社会的規範を対象とした介入策は、疎外されたコミュニティでのSRHRのアクセスの改善のために極めて重要であった。例えば、**モルドバ**のロマの思春期の若者を対象にした、SRHRに関する啓発に重点を置いた介入策は、プロジェクト対象者全体で、SRHRに関する知識・考え・行動の変化を生んだ。ロマの家庭内でそうしたテーマについて話し合うことは一般的に不適切とされているが、CAY・保護者・専門家との協議を通じてコミュニティからの理解を獲得し、結果として、ロマのCAYのSRHRに関する意識が高まった。

ルーマニアでは、そうした介入策が、疎外されたコミュニティの対象者の間で、SRHRに関する規範の変化の促進につながった。グループ・個別セッションにより、女性が自身の健康を最優先し、互いに助言を交わすことが促される、安全で包摂的な環境が創出された。セッション後、対象者は、SRHRに関する知識が深まったと感じていたり、SRHRに関する相談を受ける際にも以前よりずっと心理的な負担が軽減されたという意見を口にした。

Intimisfera展で避妊具や性教育に関する情報を提供しているパートナー団体Youth for Youthのユースボランティア
© Youth for Youth

プラン・インターナショナルのSRHRに関する調査から得られた知見

プラン・インターナショナルの調査結果が示す通り、SRHRに関する支援プログラムは、ECEで依然として極めて重要な意義を持っている[xv]。

ウクライナでは、紛争激化に伴い、**病院や診療所の破壊・リソース不足・広範な医療制度の機能不全**により、公的なSRHRサービスの利用可能性が制限されている。また、前線地域やその周辺では、薬局の閉鎖・施設の損害・サプライチェーンの遮断により、レイプのサバイバーへの緊急避妊薬や臨床的ケアの提供に支障が生じているという。

ポーランドでは、避妊や中絶の利用を含む**性と生殖に関する権利の**近年の**後退**が、難民・現地の女の子と女性にとって、SRHRサービスの利用に対する主な障壁となっている。同国の中絶法は現在、EU内で最も制限の厳しいものの1つである。ポーランドの女の子の多くは、政府やNGOからの無料のSRHRサービスに関する情報をほとんど、または全く得られていない。

ルーマニアでは、**保守的な考え方・官僚的な障壁・資金不足に直面する医療制度**により、SRHRサービスの利用可能性が制限されている。妊娠14週までの中絶は合法とされているが、医師の多くが公立クリニックでの施術や紹介を拒否している。2021年以降、ルーマニア政府が避妊への補助金や性教育への資金提供を終了させたことで、SRHRサービスは後退を強いられ、診療所の閉鎖が起きている。

疎外された集団が経験している障壁

プラン・インターナショナルの調査結果は、ウクライナとルーマニアで、疎外された集団がSRHRの情報入手・サービス利用に対し、特有の障壁に直面していることを明らかにした。**ウクライナ**では、**ロマコミュニティの女の子**を含む疎外された集団にとって、経済的制約がSRHRサービスの利用に対する追加的な障壁となっている。また彼らが利用できる無料サービスに関する認識不足が、元々限られているSRHRサービスを受けられない可能性を一層高くしている。

同様に**ルーマニア**でも、**難民・ロマ・LGBTQI+・地方部・障害を持つ人**などの集団に対するSRHRに関する差別や疎外が重大な問題となっている。ルーマニアのCSOやNGOはそうした集団に対するサービスを提供してはいるが、脆弱な人びとに対する根深く体系的な差別に対応するための、特化したプログラムを欠いている場合が多い。

SRHRに関する情報源

ウクライナ国内の思春期の女の子と、ウクライナのオンライン教育制度に従う**ポーランド**・**ルーマニア**在住の女の子によると、**性教育**の導入は遅く、通常は13歳～14歳頃に行われるという。プラン・インターナショナルの調査結果は、CSEの不十分さは紛争激化以前から存在していたが、良質なCSEのオンライン提供の難しさから、紛争激化後に一層悪化していることを明らかにした。ポーランドで、難民の女の子もCSEへのアクセスに制限があると指摘しており、年上の思春期の女の子は、同国の教育制度に移行して以来、SRHRに関する授業は一切受けていないと述べている。ルーマニアでは、現在同国の公立学校に通うユースに対してCSEはほぼ、または全く提供されていない。

思春期の若者が受けるCSEが制限されることから、女の子にとって主な情報源は**母親や女性の保護者**である。だが、家庭ではそのテーマについて話しにくい状況があり、自らその話を切り出すのを望まない女の子もみられた。また、ウクライナ紛争激化以来、女性の保護者がそうしたテーマについて話し合う時間が限られていると説明する者もいた。**ウクライナ**にいる男の子も、公式な情報源ではなく非公式な手段で情報を得ており、適切なSRHRの情報を入手できないという困難を経験している。

性別や性に関するステレオタイプと規範の影響

正確なSRHRに関する情報や良質なサービスの入手・利用のために、**保護者や家庭環境**が果たす役割は極めて重要である。しかし、IDPの世帯の保護者は、SRHサービスに対する否定的な考えにより、女の子のために専門家の助けを求めるのを躊躇する可能性がある。また、性教育が**性別や性に関する有害なステレオタイプや規範**を助長するだけであれば、思春期の若者の健康やウェルビーイングが損なわれる恐れがある。

SRHRのピア・ツー・ピア研修に参加するユース、ルーマニア
© Youth for Youth

特に**ルーマニア**では、ソーシャルメディアやポルノの影響により、セックスに関する誤情報が広く蔓延している。また、SRHRサービスへのアクセスが困難であることは、ルーマニア社会でのジェンダー規範の保守化への動きも反映している。避妊・中絶・ジェンダー的役割に関する伝統的な考え方が支配的であることの背景には、外部資金を用いて立法や公共政策に影響を及ぼしている宗教団体の存在がある。

ECEでのSRHRのニーズや課題についての詳細は、

以下の報告書を参照。

危機下の思春期の女の子 ウクライナ、ポーランド、ルーマニアからの声(2024年6月)

Sexual & Reproductive Health and Rights in Romania: Current Status and Future Trajectories(2024年8月)

E. GBV

プラン・インターナショナルとパートナー団体によるECEでのGBV対策の取り組みは、当初の情報啓発活動から、GBVのサバイバーに対する直接的な支援の提供とともに、GBV発生の抑制のためのジェンダー規範への働きかけに重点を置く方向に発展している。

ECEにおいて、プラン・インターナショナルとパートナー団体により

8万7,000人

に**GBV対策プログラム**が提供された

プラン・インターナショナルとパートナー団体による情報提供により、プロジェクト対象者のGBVの危険性に対する認識度が高まった。ウクライナで活動開始当初、パートナー団体と連携して大規模啓発キャンペーン・ワークショップを実施した。パートナー団体は、Confidence Diaryや、Detoxiq Show[xvi]等のユース主導のメディアプロジェクトといったツールの活用により、最前線・紛争の影響を受けた地域の何千人もの思春期の若者にリーチした。それらの取り組みにより、ユースのGBVのリスクに対する認識の深化・個人の境界意識の強化・助けを求める行動の促進がなされた。

ルーマニアでも、統合的な対話型活動により、ユースが複雑なテーマに対して批判的に取り組むことができた。タブーや羞恥心から、積極的な好奇心や知識に基づく議論へと徐々に変化していったことで、対象者は尊重・同意・自己認識に関する重要な考えを内面化することができた。彼らは、性の健康・解剖学・暴力防止に関する正確な情報を理解するだけでなく、それを仲間や友人に共有し、プロジェクトの影響力を活動外へと広げていった。

オンライン上のキャンペーンや情報資料提供によって、受入国に存在するリソースに関する認知度を高めつつ、プラン・インターナショナルとパートナー団体によるサバイバー向けのGBV関連サービスの拡充により、サバイバーの保護と安全の確保に寄与した。例えばモルドバとルーマニアでは、プラン・インターナショナルのパートナー団体がSEAの女性サバイバーに避難所・安全な場を提供し、危機下での彼女たちの保護と尊厳を保証した。またルーマニアでは、法的支援やカウンセリングにより、女性と女の子に自律性と安心感を取り戻させることを実現した。

それらのサービスは様々な集団のニーズを包摂的に考慮したものだった。難民やIDPの女性には文化的な配慮を施した支援を行い、障害を持つ者や他の脆弱な立場にいる集団に対しても、保護を確保するために個別の支援提供策が講じられた。そしてルーマニアでの別の介入策として、家庭内暴力関連の担当者を対象とした能力構築セッションの支援がなされ、禁止令・女性への暴力対策サービス・支援基準等テーマに関する知識の強化が図られた。

その上、プラン・インターナショナルは2024年、ECEでのGBV発生率の低減のために、ジェンダー規範に重点を置いたプログラムを開始した。ウクライナでは、500人超の思春期の若者とユースを対象に**CoC**プログラムを実施し、彼らのジェンダー平等に関する知識の深化・有害な規範への挑戦・リーダーシップや提唱活動のスキルの向上が図られた。同プログラムにより、彼らの行動における好ましい変化・ジェンダー不平等に対する意識の向上・コミュニティの取り組みへのユースの積極的な関与が確認されたことが確認されている。

同様にルーマニアでも、男性と男の子を啓発キャンペーンに関与させ、前向きなロールモデルを促進するとともに、暴力を助長する社会的規範に挑む取り組みが行われた。ポーランドでは、GBV対策プログラムも、緊急事態下の事例管理・法的支援から、広範な防止戦略へと移行し、長期的なGBV発生率減少に向けたジェンダー平等の推進に一層注力した。ウクライナ・ポーランド・ルーマニアでのそれらの取り組みは、根本原因に対応し、GBVに対するコミュニティのレジリエンスを構築するという地域全体目標と合致していた。

CoCプログラムについて

プラン・インターナショナルの**CoC**プログラムは、ユースの関与を通じたジェンダー平等の推進を目的としている。41カ国で展開されている同プログラムは、女の子の能力強化とともに、男の子を関与させ、彼らの差別や不平等を維持させる有害で負の男性性の認識・挑戦を目指している[xvii]。

プラン・インターナショナルのGBVに関する調査から得られた知見

プラン・インターナショナルの調査結果[xviii]が示す通り、思春期の女の子・LGBTQI+コミュニティに属する者・難民などの脆弱な立場にいる人びとに対するGBVへの対応強化を目的としたプログラムは、ECEで依然として極めて重要な意義を持つ。

思春期の女の子に対するGBVの脅威

ECEの思春期の女の子は、家庭・オンライン・公共の場でのGBV等、様々な**保護上の危険**に晒されている。プラン・インターナショナルが調査を実施したウクライナ・ポーランド・ルーマニア[7]で、10歳～19歳の女の子のうち7人が、SEA被害に遭うことへの強い恐怖を表明し、レイプや他の形態の性的暴行に対する懸念を述べた。

例えばウクライナにいる女の子は、紛争そのものによる不安より、性暴力に対し強い懸念を口にすることが時々あった。ルーマニアとポーランドでは、女の子が対面・オンラインで、憂慮すべき高頻度でセクシュアルハラスメントに遭っていると報告しており、その頻度は、それが常態化しているかのようにみえるほどである。彼女たちは、安全のため、**夜間の外出や1人で歩くのを避ける**といった、行動を制限していると話した。

ポーランドで女の子は、大人の男性が思春期の若者のふりをして行う「catfish(なりすまし)」・望まないヌード画像の受信・性的な写真の送信の要求・同意のない未編集画像の拡散等、**オンライン上のセクシュアルハラスメント**を報告した。ウクライナでは、紛争の影響や保護者のサイバーセキュリティに関する知識不足により、子どもへの監督が十分に行き届かず、**思春期の若者がオンライン上でSEAや詐欺などの脅威**にさらされるリスクが高まっている。

公共空間でのGBVと十分な安全性の欠如

プラン・インターナショナルの調査結果は、ルーマニアやポーランドにいるウクライナの思春期の女の子が、公共の場で大人の男性の自慰行為の目撃・性的な冷やかし・同意なしの公共の場での撮影・性的暴行等、**公共の場でセクシュアルハラスメントや性的暴行**に遭う可能性が極めて高いことを明らかにした。また、ルーマニアとポーランドにいる難民の女の子は、国籍のために男の子や男性からハラスメントを受けたと報告しており、難民という立場が知られることで、彼女たちが立場を悪用する人物の標的になり得ることが示されている。

また、ポーランドの**Safer Citiesプロジェクト**に参加した女の子とユース女性は、**ジェンダー差別**や男女間の**不平等な力関係**により、公共の場で脅威や不安を感じたりすることが多いと指摘した。ポーランドのユース女性の43%が18歳までに公共の場で最低でも1回はハラスメントを経験しているという状況下で、プロジェクト参加者は、自身の安全に対する責任を自ら負わなければいけないと感じ、不満であると述べた[8]。

GBVに関する規範

プラン・インターナショナルの調査結果は、思春期の女の子が**被害者非難の考え方**を明確に認識しており、警察による保護やサバイバーへの正義の欠如が、警察への通報をしたがらない原因となっていることが多いことを明らかにした。そうした態度を自ら繰り返している女の子も何名かみられたことから、彼女たちが、性暴力の原因としての加害者の存在という認識が欠如した認識を内面化しており、そのため、自身が遭った暴力に関し他者から非難されると考えるようになってしまっていることが示唆される。

ウクライナ紛争激化により、思春期の若者が従来のジェンダー的役割の強化を経験すると同時に、「日常」生活が乱されたことが、**ジェンダー的役割・考えに**何らかの**変化を起こしている**証もみられる。ウクライナ・ポーランド・ルーマニアで、思春期の女の子は、社会のジェンダーに基づく期待と、それが女の子と男の子に対して存在し得る選択肢や経験にどう影響を及ぼしているかに関し、強い認識を示していた。

7 プラン・インターナショナルはモルドバでも活動を行っているが、調査はウクライナ・ポーランド・ルーマニアのみで実施した。だが、モルドバにいる女の子が瀕している保護上の危険も同様である。

8 同プロジェクトでは、公共の場で女の子とユース女性が経験したものの検証を行い、対象者には、民族的/文化的少数派・難民を含む様々な移民の立場にいる者・LGBTIQ+コミュニティに属する者・障害を持つ者・有色人種の女の子とユース女性といった、疎外された集団も含まれた。

Safeteenワークショップに参加するユース、ウクライナ
© Plan International

同様に、2023年にプラン・インターナショナルが実施したウクライナの復興・復旧に関する調査に参加したユース女性や思春期の女の子の中には、復興・復旧の過程が**伝統的なジェンダー的役割に挑む契機**となることを期待する声もみられた。思春期の男の子とユース男性は概してジェンダー配慮を軽視していたが、紛争がジェンダー規範や男性性に及ぼす影響に関する調査やプログラムが、同国の再建過程においてGBVの防止や有害なジェンダーステレオタイプの強化の防止に寄与し得る。

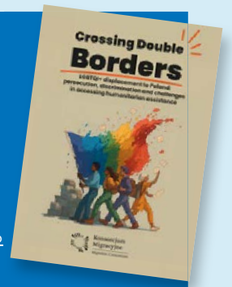
疎外された集団に対する危険性の高まり

プラン・インターナショナルの調査結果は、**ポーランド**で疎外された集団がGBVに遭う可能性が高まっており、特に複数の脆弱性の要素を持つ女の子とユース女性は、重大な危険に晒されていることを明らかにした:

- ロマを含む**少数民族**の女の子とユース女性は、民族性とジェンダーに基づく交差的な差別を経験しており、人種的なステレオタイプや偏見による、公共の場でのハラスメントや暴力に遭う可能性が高まっている
- **難民**の女の子とユース女性は、言葉の壁・文化的孤立・差別による、学校や公共の場での差別や、オンライン・対面でのヘイトスピーチ等の、安全が脅かされるリスクが高まっている
- **LGBTQI+**コミュニティに属する女の子とユース女性は、同性愛嫌悪・トランスフォビア・GBVに関する安全上の懸念を抱えており、公共の場での排除やハラスメントに遭っており、それが彼女たちの安心感やウェルビーイングに影響を及ぼしている

ECEでのGBVのニーズや課題についての詳細は、

以下の報告書を参照。



ウクライナ紛争を語るユースたち: ウクライナの復興と復旧にユースの声を反映させる(2023年6月)

危機下の思春期の女の子 ウクライナ、ポーランド、ルーマニアからの声(2024年6月)

Safer Cities for Girls - Policy Recommendations for a Safer Poland: Addressing Gender-Based Violence in Public Spaces(2024年9月)

Crossing Double Borders - LGBTQI+ displacement to Poland: Persecution, Discrimination and Challenges in Accessing Humanitarian Assistance(2025年6月)

F. 教育

プラン・インターナショナルとパートナー団体によるECEでの教育プログラムは、紛争・避難・体系的な課題がある中でも、継続的な良質な学習機会の継続を確保してきた。また、教育の継続は、IDP・難民のCAYの新しいコミュニティへの統合にも有益なものとなっている。

ECEにおいて、プラン・インターナショナルとパートナー団体により
110万人
に**教育プログラム**が提供された

プラン・インターナショナルのウクライナでの活動の開始当初から、補習授業・学習支援・課外活動等、様々なオンライン・対面での取り組みにより、継続的な混乱の中でもCAYの学習の継続を支えてきた。プラン・インターナショナルは同国教育省との連携により、教育制度のレジリエンスを強化し、避難所内に安全な場を創出し、子どもが安心できる環境で学習を継続できるようにした。

最近では、パートナー団体が、5年生～11年生までの子どもの正規教育と代替教育への途切れることのない学習機会の提供を保証させた。継続的な紛争の混乱下、主要教科の補習授業から成る包括的なプログラムが実施された。また、言語療法士によるセッションにより、個々の学習ニーズへの対応と、全体的な子どもの発達を支援した。

パートナー団体による必須備品の提供や学校の修復も、ウクライナでの良質な教育サービスの利用可能性を向上させた。例えば、パートナー団体が13の給水設備を設置したことにより、ムィコラーイウ州の学校・幼稚園での飲料水の提供が可能となり、教育の利用可能性が向上した。また、チェルカースィ・フメリニツキー・キロヴォフラード・ヴィーンヌィツャ各州での学校の修復により、学習環境と生徒の学習意欲が、特に地方部で、向上した。

幼稚園の地下室にて授業を行う教師、ハルキウ州
© Words Help/ Georgiy Ivanchenko

ユースセンターでロボット工学の授業に参加するウクライナ人ユース、ブカレスト
© Plan International

子どもの学習環境の著しい改善や、新しい教育ツールや魅力的な活動の導入により、子どもの学習意欲と参加意欲が高まった。こうした成果は、ウクライナにおけるパートナー団体の取り組みが、教育サービスのレジリエンス強化においてインフラ支援の重要性を示していることを明らかにしている。

受入国で、教育や社会活動の継続は、難民のCAYに安全な場を提供した。モルドバとルーマニアでは、正規・代替的教育活動が、難民の世帯が日常生活の感覚を取り戻す助けとなった。コンピューター室を備えたコミュニティセンターや教育拠点により、ウクライナの教育制度を継続する子どもが整った環境下でオンライン学習を受けることを可能にした。それらの設置は、自宅で子どものオンライン学習を支援する必要があった保護者の負担の軽減にもつながった。結果的に、コンピューター室はデジタル教育の促進だけでなく、子どもへの日常に近い環境の提供につながった。

ポーランドでは、子どもの自信・感情のコントロール・社会的関与に重点を置いた介入策により、対象者の行動・考え方に明らかな変化がみられた。例えば、演劇・ヨガ・リーダーシップセッションは、長期化した避難生活下で、参加者に安定感・帰属意識・自己表現の機会を提供し、彼らの心理社会的・発達上のニーズに対応した。芸術的・身体的・内省的なセッションを組み合わせた取り組みは、参加者のウェルビーイングと社会への再統合に寄与した。

そして、語学コースが、受入国での難民のCAYの社会への統合を積極的に後押しした。例えばポーランドでは、プラン・インターナショナルのパートナー団体が採用したSELの実践の組み込みも含む様々な手法により、教室内での統合の促進と、出席者のウェルビーイングと相互理解の向上に寄与した。また、異文化間討論クラブや混合活動も、当初の枠組みを超えた統合の機会を生み出した。

同様にモルドバでは、ルーマニア語の習得支援を含む加速教育プログラムが導入され、危機の影響を受けたCAYの喫緊かつ短期的なニーズへの対応が可能となった。同プログラムは、彼らに教室や正規の学習過程に再び適応できるよう支援し、SELの能力強化を目的とした非公式な活動の提供も行った。教育省により採用された同プログラムは現在、難民の学習者を受入れているモルドバの学校にとって、中核的リソースとなっている。

ルーマニアでも、プラン・インターナショナルとパートナー団体が支援する語学教室が、子どもと思春期の若者の社会統合の向上に寄与した。ウクライナからの難民の子どもと思春期の若者の中には母語並みの語学力を身につけた者もおり、彼らは教室の外でルーマニア人の同年代の子どもと次第に交流を深めていった。その介入策により、難民の子どもがルーマニアの学校に入学できるようになり、中にはルーマニアの高等教育への進学を希望する思春期の若者も見られた。

プラン・インターナショナルの教育に関する調査から得られた知見

ウクライナにいるCAYと、紛争激化以来ポーランド・ルーマニア・モルドバにいるCAYは、学業の混乱を経験している。多くの人がCOVID-19によるオンライン学習で混乱を経験したように、プラン・インターナショナルの調査結果は、継続的な良質な教育を確保するためのプログラムは、ECEで依然として極めて重要であることを示している[xix]。

ウクライナでの対面授業に伴う安全上の問題

ウクライナでは、**避難所への移動を強いられることによる**継続的な**混乱**が、思春期の若者の出席や継続的な教育を継続的に受ける能力に影響を及ぼしており、彼らの学校環境での不安感を一層強めている。プラン・インターナショナルの調査結果は、ウクライナにいる女の子が、彼女たちの身体的安全を脅かす砲撃の差し迫った危険により、学習経験が損なわれていることを指摘している。

思春期の若者は対面授業の危険性に対し懸念を示した一方、ウクライナ西部・中部の学校では、安全対策を強化して授業を再開している。しかし、新たな防空壕の設置や既存のものの補強をしたとはいえ、防空壕の収容人数が限られているため、**安全な対面授業の実施に困難を覚えている**場合が多い。

オンライン学習が望ましい選択肢でもない

ウクライナにいる思春期の若者は、学校よりも自宅の方が安心感を得られると感じている一方で、**対面での交流・学習**が社会化にとって重要であると訴えている。年齢やジェンダー、国を問わず、紛争の影響を受けた思春期の若者は、学校に戻り、同級生と再会し、「日常」を取り戻せる日を切望している。

ウクライナ人ユースも、オンライン学習による教育水準や学習成果の低下に加え、学習意欲や集中力の維持が難しくなっていると指摘し、不満を口にした。

EduTech Labsの1つで授業を受ける子どもたち、モルドバ
© Amicii dei Bambini

オンライン教育は、機器・電源・インターネット接続の利用可能性に大きく左右される。生徒が安定した環境を利用できない場合、課題を完了するためには、柔軟な対応が求められることが多い。

受入国の教育制度への統合

プラン・インターナショナルの調査結果は、**言葉の壁**が、思春期の若者が受入国の教育制度に溶け込む上で最大の障壁となっていることを明らかにした。**ポーランド**では、ウクライナ人の生徒が学べるような教科書や教材の整備が不十分であった。また、彼らはウクライナの教育制度での学習の継続のため、ウクライナの学校のオンライン授業にも参加している場合が多く、彼らの学習負担が増大し、結果、ポーランドの学校への出席率や放課後活動への参加を妨げている。

ルーマニアでも同様の問題が報告されている。2023年5月1日時点で、ウクライナからの難民の思春期の若者は、経済的支援の受給資格を得るため、国の教育制度に登録しなければならないとされている。だが、彼らは語学力が足りず、授業についていくことができていない。その結果、彼らの多くがウクライナの学校のオンライン学習を継続していると報告しており、それは受入先コミュニティでの通常の社会的交流から彼らを一層孤立させる恐れがある。

しかし、統合に向けた機会は存在する。ポーランドの学校の授業に出席する者は、多くの困難を経験しているが、学校生活には一定の日常的なリズムがあり、ポーランド語の学習機会や**仲間との人間関係の構築の機会**もあると報告している。グループワークや課外活動は、ポーランド人・ウクライナ人生徒が交流を深め、絆を築く上で有益であった。また、難民の生徒たちは、一部のポーランド人教師やウクライナ人異文化アシスタントによる支援を高く評価している。

MHPSS関連介入策を教育に統合する必要性

プラン・インターナショナルの調査結果は、**ポーランド**では紛争激化当初、ウクライナからの生徒に対する心理・教育面の支援の不足が、最も深刻な問題の1つとして指摘している。学校職員は、難民が経験し得るトラウマを認識していたが、**複雑な感情の見極め・対応スキル**や、**生徒の情緒面の安全を脅かす状況**や、専門的な介入策が必要な事例**の見極めスキル**等を、自身が向上させる必要があるとも認識していた。教員研修に加え、異文化アシスタントの存在も、生徒が文化的な違いに対応できるよう支援し、学習過程を支え、保護者との交流を円滑にしつつ、安心感を与える上で極めて重要な役割を果たしてきた。

プラン・インターナショナルのパートナー団体から提供された新しいリュックサックを背負う女の子、モルドバ
© Plan International

ECEでの教育のニーズや課題についての詳細は、

以下の報告書を参照。

- Culturally Diverse Schools(2022年8月)
- ウクライナ紛争を語るユースたち: ウクライナの復興と復旧にユースの声を反映させる(2023年6月)
- "It Is Cool Here, No Doubt About It... But Home Is Home.": Exploring the Subjective Wellbeing of Children and Adolescents Living in Poland in the Face of the War in Ukraine(2023年11月)
- 危機下の思春期の女の子 ウクライナ、ポーランド、ルーマニアからの声(2024年6月)

横断的な学び

A. ジェンダーと包摂

プラン・インターナショナルは、革新的なプロジェクトを立ち上げ、ジェンダー問題の専門組織と連携しているが、ECEでの人道支援活動の初期段階に、ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチを実施において困難に直面した。その困難は、パートナーとのプロジェクト設計段階で特に顕著で、人道支援上のニーズを考慮する際に、ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチを重視する理由が十分に理解されなかったという点だ。結果として、当初のプログラム活動は、ジェンダーや不平等な力関係への取り組みより、主にプロジェクト対象者のジェンダーに特有のニーズへの対応に重点が置かれた。

だが、2025年までに著しい改善がみられ、ECEでの全プロジェクトの大多数が**ジェンダー・トランスフォーマティブな基準**を満たすようになった。各受入国での介入策事例からは、ジェンダーの力関係への対応が次第に進められてきていることが示されている。評価対象となった介入策の大部分は「ジェンダーに配慮した」と評価されたが、**ルーマニア**のSRHR相談窓口等、介入策の中には、「ジェンダー・トランスフォーマティブ」の水準に達するものもみられた。同様に、**ウクライナ**での**CoC**プログラムや他の取り組みの実施は、ジェンダー・トランスフォーマティブな原則の遵守を反映している。例えば、プラン・インターナショナルとパートナー団体は、ユース女性活動家やユース/フェミニストCSOを対象としたGBV対策により、コミュニティでのフェミニスト的リーダーシップの育成へのユースの関与を強化した。それは、女の子とユース女性の自身に影響を与える決定に対する主体性の強化と、知識/自信/スキル/リソースの入手・管理能力の構築という、プラン・インターナショナルの目標と合致している[xx]。

プラン・インターナショナルのジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチについて

プラン・インターナショナルのジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチは、ジェンダー不平等の根本原因に取り組み、不平等な力関係を再形成するものである。私たちの戦略は、ジェンダー規範に対する批判的考察・疑問視・挑戦を促すと同時に、ジェンダーに基づくリソースや役割の分配に是正するものである。ジェンダー平等を実現可能にする政策・予算・制度的枠組みの確立により、同アプローチは女の子と女性の権利を擁護し、彼女たちが経験している障壁を打破し、彼女たちのニーズを満たすことを目指している[xxi]。

ジェンダー・トランスフォーマティブな取り組みは増加しているが、ECEでは、プロジェクトの全段階でのプラン・インターナショナルの**GTM**を適用している点を考慮し、その実践体制の強化が今も求められている。GTMの使用に関する職員の能力開発を継続することで、ジェンダー原則が体系的に組み込まれるようにし、職員とパートナー団体はプログラムの全段階でGTMを効果的に適用できるようになると考えられる。

ECE全体において、マイノリティや障害のある人の包摂が十分に実現できていない介入策も一部みられた。

プラン・インターナショナルのパートナー団体のリュックサック配布イベントに参加した女の子、モルドバ
© Plan International

少数派集団の定義が限定的であったため、**ウクライナ**と**受入国**で、他の脆弱な集団が支援から排除される事例もみられた。少数派集団がIDPや難民に限定された結果、LGBTQI+や民族的少数派などに対して、十分な支援が提供されないケースもあった。また、**ウクライナ**での人道支援物資の配布では、アクセスの困難さや移動手段の不足、長蛇の列といった課題が明らかとなり、障害のある人にとってのアクセス確保の重要性を示す教訓となった。これらの事例は、すべてのマイノリティが適切に支援対象となるよう、包括的な包摂戦略をプロジェクト全体で策定する必要性を強く示している。

こうした課題はあったものの、ECEでの大多数の介入策は、複数回の評価を通じて、疎外された集団に対する包摂的な支援が実現されていることが確認された。例えば**ポーランド**では、個々の状況に合わせた支援を行うために**パートナー団体により作成されたアンケート**を用いた個人・世帯の脆弱性を評価することで、人道支援介入策の一環としての脆弱な難民世帯への支援提供を強化した。**ルーマニア**では、SRHRに関する介入策の一環として、女性と女の子、特にロマの者、が経験する差別や意思決定権の制限等の障壁を評価する、**ジェンダー分析**が行われた。それにより、包摂的な環境の醸成・女性の能力強化・ジェンダーの力関係の解明が可能となった。また、同国の別のプロジェクトでは、**脆弱性評価**の導入が、脆弱な立場にいる参加者の特定に役立った。

B. ユース重視

2023年半ばまで、プラン・インターナショナルのウクライナ人道危機対応では、ユースを中心に据えたプログラムの展開に困難が生じていた。パートナー団体はユースの関与に意欲的であったものの、彼らは、ユースの関与に関する原則を実際の活動に反映させるためのノウハウを有していなかったため、彼らはユース主導の取り組みの具体的な実践方法について、明確な指針・能力を欠いていることが判明した。そのため、プラン・インターナショナルは手法を変え、ユースとのつながりの構築と、彼らが自身のニーズや優先事項を自由に表現できる安全な場の提供により、**意図的にユースの関与を推進**した。

2023年6月にストックホルムでのEU理事会ハイレベル会合で、政策文書**「ウクライナ紛争を語るユースたち：ウクライナの復興と復旧にユースの声を反映させる」**[xxii]を発表したことが、転換点となった。

その戦略的な提唱活動は、ユースの意見を政策レベルへと届け、復興計画にユースの意見を組み込むよう訴えたものである。その後、2023年11月にキエフで開催されたユースイベントは、その流れを一層強固にし、ユースが政府関係者・CSO・プロジェクトパートナー団体と直接対話できる場を提供した。

2024年を通じて、プラン・インターナショナルは提唱活動によるユースとの関わりを継続させた。プラン・インターナショナルのECEの職員は、ウクライナのパートナー団体に所属する2名のユース女性活動家と共に、ブリュッセルで開催されたヨーロッパ人道支援協議に参加した。それは、その2名のユース活動家に、ウクライナ保健副大臣やEUの代表者を含む意思決定者との直接対話の機会を与えた。またプラン・インターナショナルは、ウクライナでの人道支援関連の現在のニーズ・優先事項・課題に関し、ウクライナのユース活動家の意見を聞くため、ユース主導のウクライナの優先的な課題の解決をテーマとしたウェビナーを開催した[xxiii]。

プラン・インターナショナルの2024年報告書**「危機下の思春期の女の子 ウクライナ、ポーランド、ルーマニアからの声」**[xxiv]もまた、ウクライナ紛争の影響を受けた思春期の女の子やユースの声の増幅に寄与し、継続的な危険な状況・MHPSS・学業中断の影響・SRHRの享受の制限等、主要な問題を扱った。同報告書の発表は、ウクライナ出身の3名のユース女性活動家が参加した、ベルリンでのウクライナ復興会議開催に先立って行われた。同会議で、彼女たちはドイツの市民社会や政策決定者に対し、ウクライナの将来に向けた優先事項や提言を訴えるとともに、ドイツ連邦議会議員・ドイツ外務省・経済協力開発省の議員とも面会した。

2025年以降、プラン・インターナショナルは、ECE全体でユース重視を大幅に強化し、提唱活動による関与から、より体系的で参加型の取り組みへの戦略的転換を行った。その変化は、以下を含むいくつかの取り組みに顕著に表れている。

- ジェンダー平等とユースの能力強化を統合し、**ウクライナでの状況に応じたCoCプログラムの適応・直接的な実施**
- 全国レベルでのユースを中心に据えた取り組みによるGBVの撲滅・ジェンダー平等の推進を図った、**ポーランドのユース主導のパートナー団体に対する、7件の少額助成金の給付**
- 思春期の若者へのSRHR・CSEの啓発セッションを主導させるため、**ルーマニアのユースであるピア教育者を通じた、パートナー団体との連携の継続**

そうした前進がみられるとはいえ、プラン・インターナショナルはユースと協力し、彼らを参加者ではなく、変化の担い手として関与させるように取り組みを体系化する必要がある。従って、プラン・インターナショナルのECEでのユース主導に対する注力を実践に移すために、明確な戦略の策定が求められる。それは、最も脆弱な集団のニーズに応えるだけでなく、同地域の数多くのNGOの中でプラン・インターナショナルが際立った存在となることを保証することができるだろう。

C. 関連性

参加型手法は、多様なプログラム領域で、介入策の重要性を高める上で中心的な役割を果たしてきた。ウクライナと受入国で、対象者の振り返りに基づく介入策の適応は、その有効性を確保する上で不可欠であった。参加型でニーズベースの設計は、対象者の主体性を育み、難民と受入コミュニティ双方のニーズに対応することを可能にし、社会的結束の強化にもつながる。受入国での介入策の結果、統合的で柔軟な実施方法と、難民・現地住民双方のニーズへの配慮が、両コミュニティのCAYと彼らの家族に対する介入策の重要性を高めたことが明らかになった。

プラン・インターナショナルとパートナー団体は、複数の仕組みを通じて、ECEでの参加型の設計・実施を進め、介入策の重要性を高めた。例えば**モルドバ**では、継続的な関与と対象者との密接な関係により、活動の設計から実施まで、一貫してその重要性を高めた。

ニーズ評価は公式な協議・継続的な観察・保護者グループ/コミュニティ集会/オンラインコミュニケーション等の非公式なフィードバック収集経路を組み合わせて繰り返し実施された。**ポーランド**でも同様に、子ども・思春期の若者・保護者・現場職員との継続的な協議により活動内容が形成された。パートナー団体は、**アンケート調査・フォーカスグループ・非公式な議論**を用いて優先事項を整理し、参加者のフィードバックに基づきセッション内容を調整した。

プロジェクトの性質やコミュニティとの密接な関係性を背景に、パートナー団体はニーズ評価においても主に口頭でのコミュニケーションを活用していた。モルドバとポーランドでは、そうした取り組みにより、子どもの保護・MHPSS・教育・SRHRに関する活動の介入策が、コミュニティの優先事項と整合性を保ちつつ、新たなニーズにも対応できるようにした。

D. 効率性

ECEでのプラン・インターナショナルの**パートナー主導型の取り組み**は、プロジェクト実施における共同での問題解決を可能にしたことで、各介入策の効率向上に寄与してきた。ECEでの介入策の事例からは、プラン・インターナショナルがプロジェクト実施中にパートナー団体のニーズに対して一貫して高い対応力と適応力を発揮し、共同での問題解決の取り組みとパートナー団体の能力面への配慮が、全体の効率性を高めるとともに、相互の信頼関係を強化したことが明らかになった。

また受入国での介入策の事例からは、パートナー団体が必要に応じて日程の再調整や実施方法の変更、予算の再配分を行い、高い適応力を発揮していたことが示された。例えば**ルーマニア**では、効率性は信頼に基づく協力と密接に結びついており、建設的と評価された月次会議は、問題に関する開かれた議論を可能にした。**ポーランド**でも、効率性は監督と実施上の柔軟性との均衡により形成されていた。月次報告会議が体系化されたことで、プラン・インターナショナルは過度な統制に頼らず、活動を詳細に監督することができた。また、効率性を高めた要因として、実際のニーズに対応するための、パートナー団体のリソース配分の迅速な調整能力であった。

ウクライナと受入国での介入策の事例も、パートナー団体向け**研修**の重要性がプロジェクトの効率性にとって肝要であることを示した。例えばプラン・インターナショナルが実施した、子どもにやさしい振り返りの仕組みやセーフガード方針に関する研修により、パートナー団体は自信を持ち、効率的な活動実施ができるようになった。それは、パートナー団体との技術的な議論に留まらず、彼らのニーズ・制限に対応するよう、**OCA**に基づく体系的なパートナー団体の能力開発への取り組みが必要であることを明らかにしている。例えば、**ポーランド**と**ルーマニア**での介入策は、効率性の向上のための、プロジェクト管理やリソース管理に関する好事例の活用により効果を得た。また**ポーランド**では、パートナー団体の予算内に能力開発専用の予算を確保させることで、パートナー団体に自らの内部ニーズの評価・対応のための自律性を高めた。

E. 持続可能性

ECEでは、活動が**制度・組織の日常業務・コミュニティの実践**に定着した場合、持続可能性は高かった。そのため、パートナー団体や当局が今後も独自に活用し続けられる知識・研修資料・ネットワーク構築を提供した活動が、最も持続的な成果をもたらしたと言える。

だが、プラン・インターナショナルのECEでの取り組みの持続可能性の確保において、継続的な資金調達は主要な問題であり続けている。能力強化を受けた人材の将来は資金提供に現在も左右されるため、国際的なドナーを含む多様な資金源から資金を確保する能力が、プラン・インターナショナルのECEでの取り組みの長期的な持続可能性の保証には必須である。しかし、アメリカの開発援助からの撤退により、重要なサービス提供が妨げられ、各部門で資金不足が生じ、それがプラン・インターナショナルのECEでのプロジェクトの持続可能性に影響を及ぼしている。

その状況下で、プラン・インターナショナルは資金調達の縮小に対応し、**活動範囲を調整**することを強いられた。例えば、**ポーランド**が高所得国に分類されたことや、世界的危機により注目やリソースが他へ向けられたことが、ドナーの優先事項に重大な影響を与え、ウクライナの難民のニーズの可視性が低下した。そのため、プラン・インターナショナル・ポーランドは、現地に深く根ざした強固に確立された組織との厳しい競争に直面し、新たな資金提供の入手は一層困難になった。そのためプラン・インターナショナルは、民間リソースを活用し、戦略的にドナーの基盤を多様化させた。また、SRHRに関する世界的な専門知識を活かし、ポーランドでの専門アクターとしての地位を確立するとともに、子どもの保護と包摂的な教育への注力を維持した。

モルドバでは、法改革とUNHCRからの財政支援により、ウクライナの難民の国内制度への統合が進み、人道支援対象集団の中で特有の存在として彼らを捉える傾向が薄れつつある。

この変化を受け、プラン・インターナショナルは、直接支援から制度強化型の取り組み、特に教育と社会保護の領域での、へと移行した。だが、ロシアの干渉や経済的圧迫に特徴づけられるモルドバの不安定な政治情勢は、受入側の住民の脆弱性を高めている。資金提供の縮小と人員削減により、プラン・インターナショナルの技術的監督・プログラムの水準維持能力は一層制限されている。その影響はプログラムにも及び、プラン・インターナショナルは戦略的重点を子どもの保護・SRHR・教育に置くようになった。

同様に、**ルーマニア**では2024年、政権交代やウクライナ人の帰国・移動を伴う難民情勢の変化を受けて、活動環境が大きく変化した。これにより、人道支援の規模は縮小し、より柔軟に対応できるプログラム設計が求められるようになった。その結果、プラン・インターナショナルは、受入側コミュニティを対象に含めてプログラム拡大し、特にSRHRに重点を置く、という対応をとった。SRHRに関する調査報告書「**Sexual & Reproductive Health and Rights in Romania: Current Status and Future Trajectories**」[xxv]の発表は、プランのその領域における技術的先導者としての地位を確立し、小規模な草の根組織との連携関係構築を促進した。

Let's go子どもセンターの職員、キエフ
© Plan International

示唆される戦略的方向性

プラン・インターナショナルは、ECEにおける3年以上の活動経験を通じて、今後の戦略的方向性を示す多くの知見を蓄積してきた。これらの知見を踏まえ、効果の向上、組織としての地位強化、ならびにレジリエンスの強化に向け、以下の3つの戦略的調整が提言される。

ユースを中心に据えた ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチの実践

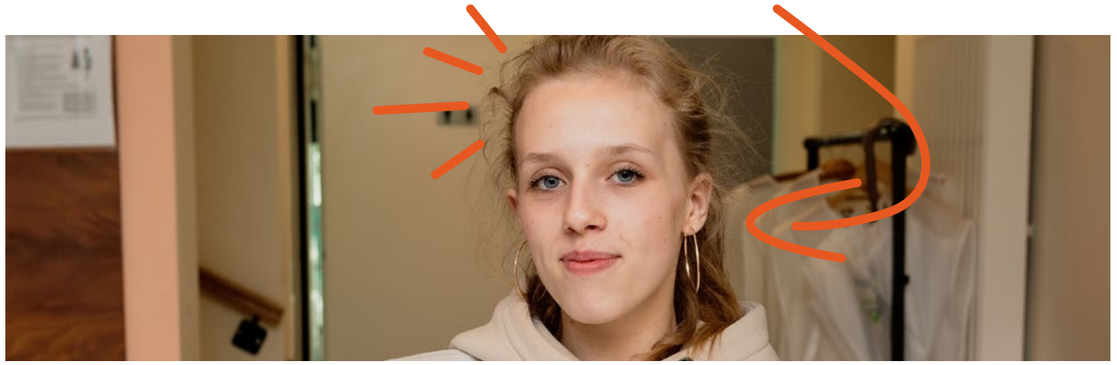
過去1年間、ECEではユースの取り組みを強化するため、草の根レベルのユース主導組織との連携が進められてきた。しかし、こうした取り組みを地域全体に展開するためには、より明確な戦略の策定が求められる。そのためには、提唱活動・キャンペーン・政策対話の場でのユースのリーダーシップの優先とともに、ユース主導組織への能力強化・意義ある参加の機会の創出・公平なリソース配分の確保が必須である。さらに、地域レベルでユース諮問グループを設置することにより、ユースの声を制度的に反映し、政策や実践をより当事者の視点に根ざしたものとすることができる。こうした戦略は、最も脆弱な集団のニーズに応えるだけでなく、プラン・インターナショナルの地域における独自性と存在感の強化にも寄与する。

一方で、各プログラムにおいてジェンダー配慮は進展しているものの、ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチが一貫して組み込まれているとは言い難い。内部における技術的リーダーシップの不足が、設計から実施・監督に至るまでの統合を妨げている。この課題に対応するためには、職員の能力強化、ツール整備、組織文化への継続的な投資を通じて、ジェンダーに関する専門性を組織として制度化していく必要がある。

証拠に基づく取り組みの強化

ECEにおける今後の戦略では、ユース中心およびジェンダー・トランスフォーマティブの原則を基盤としつつ、各国の状況に即したエビデンスに基づく柔軟な取り組みの導入が求められる。調査への投資を通じて証拠に基づく取り組みを強化することは、プログラムの妥当性向上に加え、プラン・インターナショナルの技術的リーダーおよび戦略的パートナーとしての信頼性向上にもつながる。特に、影響力の高い調査は、ユースの実態や経験を反映した介入策や提唱活動の設計に資する。また、サービスや政策、手続きの改善において技術的パートナーとしての付加価値を示すことは、ドナーからの支援強化にもつながる可能性がある。

さらに、本報告書の分析結果は、プログラムの効果を体系的に評価するためには、質の高いデータの確保と正式なモニタリング・評価枠組みへの投資が不可欠であることを示している。紛争下での効果測定には困難が伴うが、信頼性向上のためには、明確な指標の設定、変化を測定する仕組みの構築、説明責任を担保する第三者評価の導入が重要である。加えて、テーマ別枠組みやプロジェクト管理・評価・学習のためのグローバルリソースを活用することは、ECEにおける介入策の効果最大化と知見の蓄積に寄与する。



ウクライナの女の子へのSRHRバウチャーの配布を監督しているプラン・インターナショナルのパートナー団体の職員、ルーマニア
© Jesuit Refugee Service

内部能力の強化

ECEでの活動から、安定した内部体制と有能な人材への早期投資の重要性が明らかとなった。対応初期においては、助成金管理やプロジェクト運営上の制約により、受入国での効果的な監督・実施が困難となる場面も見られた。また、技術的専門性への過度な依存が、現場の実情やパートナー団体の能力と必ずしも一致しない場合もあり、その結果、遅延や監督不足・プロジェクト延長の繰り返し・内部負担の増加といった課題が生じた。特に、能力の限られた組織との連携は、財務面での負担を増大させる要因ともなった。

2023年半ば以降、プラン・インターナショナルはプロジェクトマネージャーの採用を進め、プログラム管理体制の強化を図ってきた。

その結果、運営能力は改善されたものの、資金縮小により専門人材への継続的な投資には制約がある。それでも、内部の技術力およびプロジェクト管理能力の強化は、質の高い実施のみならず、パートナーとの信頼関係構築においても不可欠である。今後は、OCAに基づく体系的な能力開発の仕組みを地域レベルで構築し、パートナーシップのあらゆる側面に対応できる体制を整える必要がある。また、パートナー団体の能力が限られる場合には、予算内に能力開発のための専用資金を確保することで、自律的なニーズ評価と対応を可能にすることが重要である。

結論

過去3年半にわたり、プラン・インターナショナルとECEのパートナー団体は、急速に変化する地域情勢の中で、高い機動力と対応力を発揮してきた。本評価からは、ECEにおける統合型プログラムの有効性が明確に示されている。6つのプログラム領域が相互に連携することで、IDP・難民・受入コミュニティの喫緊のニーズに対応すると同時に、中長期的な開発成果の創出にもつながった。各プロジェクトは、保護的な環境の整備を促進するとともに、CAYに対する教育機会や言語支援の拡充に寄与した。また、情報提供や紹介、SRHRおよびGBV関連サービスの提供を通じて、対象者のウェルビーイング向上とコミュニティの能力強化が進められた。

さらに、ジェンダー・トランスフォーマティブかつユース中心のアプローチについても、前向きな成果が確認されている。初期段階では、ジェンダーに特有のニーズへの対応に重点が置かれていたが、2025年時点では、ECEにおける大多数のプロジェクトがジェンダー・トランスフォーマティブの基準を満たすまでに発展した。また、体系的かつ参加型の手法の導入により、ユースの関与は大きく強化されている。

本評価はまた、介入策の効果を高める上で、疎外された集団の参加を確保する評価手法や、パートナー主導の参加型アプローチといった横断的要素の重要性も示している。資金制約やニーズの変化といった課題は存在するものの、プラン・インターナショナルとパートナー団体は、状況に応じて戦略の重点を柔軟に調整することで、継続的な適応を実現してきた。

今後、戦略的優先事項を現地の実情および国際的枠組みと整合させることで、プラン・インターナショナルはECEにおける信頼される技術的リーダーとしての役割をさらに強化し、より高いインパクトを持つプログラムを展開していくことができるだろう。次期戦略は、これまでの教訓の定着、パートナーシップの深化、そしてレジリエンスの強化を通じて、すべての子どもとユースがECEで健やかに成長できる環境づくりを一層推進する機会となる。

謝辞

心より感謝申し上げます。

本報告書の作成にあたり、2022年以降、ウクライナ、ポーランド、モルドバ、ルーマニアにおいて子どもとユース、そしてその家族への支援に尽力されてきたすべてのパートナー団体の皆様に、心より感謝申し上げる。皆様の献身的な取り組みにより、本プログラムは地域のニーズに即した、迅速かつ適切な対応を継続することができた。

パートナー団体の一覧は、本報告書末尾のAppendixに掲載している。

以下の皆様にも、深く感謝申し上げます。

本報告書に対して貴重なご意見とご助言を賜った、Yunus Asfari、Diana Biclineru、Margaret Bruce、Sven Coppens、Vanessa Forrest、Lilit Hayrapetyan、Consuelo Lasso、Tendai Manyozo、Jen Redden、Barbara Scettri、Sue Ellen Stefanini、Yaroslava Tarasenkoにも、深く感謝申し上げる。

執筆:
Adèle Pavé

デザイン・レイアウト:
We Design

参照文献

i OECD (2025) International Aid Falls in 2024 for First Time in Six Years, Says OECD.以下にて入手可能: https://www.oecd. org/en/about/news/press-releases/2025/04/official-develop-ment-assistance-2024-figures.html.

ii Ibid.

iii UNOCHA (2025) Coordinated Plans 2024.以下にて入手可能: https://fts.unocha.org/plans/overview/2024; International Rescue Committee (2025) Global Aid Crisis: 13 Countries Most Affected by International Aid Cuts.以下にて入手可能: https://www. rescue.org/13-countries-impacted-aid-cuts.

iv UNOCHA (2025) Ukraine.以下にて入手可能: https://www.unocha.org/ukraine.

v UNHCR (2025) Emergency Appeal: Ukraine Emergency.以下にて入手可能: https://www.unhcr.org/emergencies/ukraine-emer-gency; UNHCR (2025) Ukraine Refugee Situation.以下にて入手可能: https://data.unhcr.org/en/situations/ukraine.

vi OECD (n.d.) Evaluation Criteria.以下にて入手可能: https://www.oecd.org/en/topics/sub-issues/development-co-operation-evalua-tion-and-effectiveness/evaluation-criteria.html.

vii OCHA (2025) Cash and Voucher Assistance (CVA) - Ukraine 2024 Response Analysis Snapshot (January to December 2024).以下にて入手可能: https://www.unocha.org/publications/report/ukraine/cash-and-voucher-assistance-cva-ukraine-2024-re-sponse-analysis-snapshot-january-december-2024.

viii Plan International (n.d.) Cash and voucher assistance in emergencies.以下にて入手可能: https://plan-international.org/emergencies/cash-voucher-assistance/.

ix UNHCR (2022) Ukraine Situation Regional Refugee Response Plan (March - December 2022).以下にて入手可能: https://reliefweb. int/report/poland/ukraine-situation-regional-refugee-re-sponse-plan-march-december-2022.

x CARE, IRC and Plan International (2025) Study Synthesis: Research on Barriers to SEA Reporting.以下にて入手可能: https://plan-international.org/poland-en/publications/sexual-exploita-tion-and-abuse-reporting/.

xi Plan International (2021) PALS: Adolescent Life Skills and Parenting in Humanitarian Settings.以下にて入手可能: https://plan-international.org/uploads/2025/07/ANNEX-F-PALS-Pro-gramme-Brief.pdf.

xii Plan International (2023) Young People on the War in Ukraine.以下にて入手可能: https://plan-international.org/publications/young-people-on-the-war-in-ukraine/; Plan International (2024) Adolescent Girls in Crisis - Voices from Ukraine, Poland and Romania.以下にて入手可能: https://plan-international.org/publica-tions/girls-in-crisis-ukraine/; Plan International (2024) Building Bridges: Towards Inclusion for Refugee Children living with Disabilities in Poland.以下にて入手可能: https://plan-international.org/poland-en/publications/research-needs-children-liv-ing-with-disabilities/.

xiii Charlson, Fiona et al. (2019) "New WHO prevalence estimates of mental disorders in conflict settings: a systematic review and meta-analysis", The Lancet, Volume 394, Issue 10194, 240 – 248.

xiv Plan International (2023) Young People on the War in Ukraine. Available at: https://plan-international.org/publications/young-people-on-the-war-in-ukraine/; Plan International (2023) "It Is Cool Here, No Doubt About It... But Home Is Home.": Exploring the Subjective Wellbeing of Children and Adolescents Living in Poland in the Face of the War in Ukraine.以下にて入手可能: https://plan-international.org/uploads/sites/98/2023/11/It-is-cool-here-no-doubt-about-it.-but-home-is-home.pdf; Plan International (2024) Adolescent Girls in Crisis - Voices from Ukraine, Poland and Romania.以下にて入手可能: https://plan-international.org/publications/girls-in-crisis-ukraine/; Plan International (2025) Invisible Wounds: Navigating mental health challenges and support for adolescent boys and young men.以下にて入手可能: https://plan-international.org/ukraine/publica-tions/invisible-wounds/.

xv Plan International (2024), Adolescent Girls in Crisis: Voices from Ukraine, Poland and Romania.以下にて入手可能: https://plan-international.org/publications/girls-in-crisis-ukraine/; Plan International (2024) Sexual & Reproductive Health and Rights in Romania: Current Status and Future Trajectories.以下にて入手可能: https://plan-international.org/romania-en/publications/research-status-sexual-reproductive-health-rights-romania/.

xvi TeenTalks (2024) Detoxiq Show.以下にて入手可能: https://www. youtube.com/@TeenTalks-club/videos.

xvii Plan International (2025) Champion of Change.以下にて入手可能: https://plan-international.org/youth-empowerment/champi-ons-of-change/.

xviii Plan International (2023) Young People on the War in Ukraine.以下にて入手可能: https://plan-international.org/publications/young-people-on-the-war-in-ukraine/; Plan International (2024) Adolescent Girls in Crisis: Voices from Ukraine, Poland and Romania.以下にて入手可能: https://plan-international.org/publica-tions/girls-in-crisis-ukraine/; Plan International (2024) Safer Cities for Girls - Policy Recommendations for a Safer Poland: Addressing Gender-Based Violence in Public Spaces. 以下にて入手可能: https://plan-international.org/poland-en/publications/safety-right-now-safer-cities-for-girls/; Plan International (2025) Crossing Double Borders - LGBTQI+ displacement to Poland: Persecution, Discrimination and Challenges in Accessing Humanitarian Assistance.以下にて入手可能: https://plan-interna-tional.org/poland-en/publications/crossing-double-borders/.

xix Plan International (2022) Culturally Diverse Schools.以下にて入手可能: https://plan-international.org/publications/culturally-di-verse-schools/; Plan International (2023) Young People on the War in Ukraine.以下にて入手可能: https://plan-international.org/publications/young-people-on-the-war-in-ukraine/; UNICEF, Save the Children and Plan International (2023) "It is cool here, no doubt about it... but home is home": Exploring the subjective wellbeing of children and adolescents living In Poland In the face of the war in Ukraine.以下にて入手可能: https://plan-international.org/poland-en/publications/children-adoles-cents-wellbeing-face-war-ukraine/; Plan International (2024) Adolescent Girls in Crisis - Voices from Ukraine, Poland and Romania.以下にて入手可能: https://plan-international.org/publica-tions/girls-in-crisis-ukraine/.

xx Plan International (2022) Frequently Asked Questions: Gender Transformative Change in Emergencies.以下にて入手可能: https://plan-international.org/uploads/2022/08/GLO-FAQ_Gender_Transformative_Change_in_Emergencies-Final-ENG-Jul22.pdf.

xxi Plan International (2019) Our Gender Transformative Approach: Tackling The Root Causes Of Gender Inequality. Available at: https://plan-international.org/eu/blog/2019/01/24/blog-alex-munive-gender-transformative-approach/.

xxii Plan International (2023) Young People on the War in Ukraine - Amplifying Youth Voices for Ukraine's Reconstruction and Recovery.以下にて入手可能: https://plan-international.org/publica-tions/young-people-on-the-war-in-ukraine/.

xxiii Plan International (2024) Youth-led solutions to priorities in Ukraine.以下にて入手可能: https://plan-international.org/eu/blog/2024/03/14/youth-led-solutions-to-priorities-in-ukraine/.

xxiv Plan International (2024) Adolescent Girls in Crisis: Voices from Ukraine, Poland and Romania.以下にて入手可能: https://plan-international.org/publications/girls-in-crisis-ukraine/.

xxv Plan International (2024) Sexual & Reproductive Health and Rights in Romania: Current Status and Future Trajectories.以下にて入手可能: https://plan-international.org/romania-en/publications/research-status-sexual-reproduc-tive-health-rights-romania/.

Appendix – Plan International's Partners per Thematic Focus[9]

Location	Partner Name	Humanitarian Assistance	Child Protection	MHPSS	SRHR	GBV	Education
Moldova	Amicii dei Bambini	●					●
	Asociata Obsteaca Centrul National de Prevenire a Abuzului fata de Copii			●			
	Ave Copiii		●				
	Centrul de Ajutor Social al Femeii si Familiei (Stimul)					●	
	Children's Rights and Information Centre and World Vision		●				●
	Copil Comunitate Familie			●			
	GenderDocM			●			
	La Strada		●				
	Primaria MEA – Moldova for Peace	●					
	The Moldova Project	●		●			●
	Uniunea pentru Echitate si Sanatate				●	●	
	Youth-Peer						●
Poland	Alliance 4 Europe			●			
	Eduro					●	
	Federa				●		
	FreedDom					●	
	Fundacja Centrum Edukacji Obywatelskiej (Center for Citizenship Education)						●
	Fundacja Dalemy Dzieciom Siłę (Empowering Children Foundation)		●	●			
	Fundacja Rozwoju Dzieci (Foundation for Child Development)						●
	Fundacja Szkoła z Klasą (School with Class Foundation)						●
	Grow Space					●	
	HumanDoc	●			●		
	Juniper					●	
	Local Girls Movement					●	
	Martynka			●		●	
	Patchwork		●	●			
	Polska Akcja Humanitarna (Polish Humanitarian Action)				●		
Poland	Polskie Forum Migracyjne (Polish Migration Forum)		●	●			●
	Strefa Dorastania					●	
	Toward Dialogue					●	
	Unity (Jedność) Foundation			●			
	Zustricz					●	
Romania	Adventist Disaster Relief Agency	●					
	Asociatia ANAIS			●		●	
	Asociatia CARUSEL	●					
	Asociatia Centrul de Dezvoltare Curriculara si Studii de Gen: FILIA				●		
	Asociatia Moaselor Independente				●		
	Asociatia pentru Dezvoltare prin Educatie, Informare si Susinere, DEIS	●		●			
	Fundație Naţional Tineret				●	●	
	Jesuit Refugee Services						●
	Protagonisti in Educatie	●		●			
	Youth to Youth				●		●
Ukraine	#WeAreAllUkrainians						●
	Slavic Heart	●	●				
	Charitable fund "BGV"						●
	Friends' Hands	●	●	●			
	DePaul Ukraine	●					
	Dobrodyiy Club	●		●			
	DOCCU		●	●			●
	EdCamp			●			
	Equilibrium		●	●			●
	NGO "Girls"			●		●	
	Istok	●		●			●
	Partnership 4 Every Child	●					
	Pomogaem	●		●			
	Posmishka		●	●		●	
	Pro.Svit			●			
	Re:Osvita						●
	SavEd						●
	STAN						
	Tvoya Opora			●			
	Voices of Children		●	●			
	War Child						●
	Wordshelp			●			●

9 This table includes all organisations Plan International has been partnering with since 2022, covering current and former partners.

プラン・インターナショナル
について

プラン・インターナショナルは、子どもの権利を推進し、誰もが平等な世界の実現を目指し85年以上にわたり世界80カ国以上で活動する国際NGOです。一人ひとりの子どもが本来持つ力を引き出すことで地域社会に前向きな変化がもたらされることを信じて、子どもや若者、さまざまなステークホルダーとともに活動しています。特に、貧困や暴力、差別や排除によって弱い立場に置かれている女の子の支援に力を入れています。

子どもや女の子たちが直面している不平等を生む原因を明らかにし、その解決にむけ取り組むことで、子どもたちが生まれてから大人になるまで寄り添い、自らの力で困難や逆境を乗り越えることができるよう支援します。

誰もが平等な世界の実現にむけて、
歩みを止めずに進んでいきます。

@plan-international
@planinternationaltv
@planinternational
@planglobal
@planinternational
@plan.international
@planinternationalece
@planinternationalece

2026年出版。本文 © Plan International East and Central Europe

PLAN INTERNATIONAL

plan-international.org